



EUIJ
WASEDA

2010年度 活動報告書

EUIJ早稲田




EUIJ
WASEDA

目 次

EUIJ 早稲田とは

概略・EUIJ 早稲田の役割

目的

総長からのごあいさつ 1

代表からのごあいさつ 1

I. 学術・教育活動 2

学部生対象

大学院生対象

学部生対象EUエッセイ・コンテスト

修士課程・博士課程学生対象EU調査奨学金

II. アウトリーチ 6

EUIJ 早稲田ウェブサイト

国会議員

中央省庁官僚

ビジネス界

市民社会と学生

国際シンポジウム

III. EUとの学術交流 13

科学技術系

社会科学系

IV. 他のEUセンター、およびEU代表部との協働 16

V. EUIJ 早稲田 17

注記1：本文中、所属大学を明記していない教授、准教授、学生等は早稲田大学の所属です。EUIJ早稲田運営委員については、所属箇所も記していない場合がありますので、最終ページをご覧ください。

EUIJ 早稲田とは

概略・EUIJ 早稲田の役割

EU Institute in Japan (EUIJ) は、日本における欧州連合 (EU) 研究のための学術拠点 (「EUセンター」) です。EUIJ 早稲田は、駐日欧州連合代表部から助成金を受け、EUIJ 関西 (神戸大学・関西学院大学・大阪大学)、EUSI 東京 (一橋大学・津田塾大学・慶應義塾大学) と共に、EUに関する学術研究交流の促進と教育・広報活動の推進を共通の目的として活動しています。2009年4月に早稲田大学に開設されたEUIJは、国内3拠点目、単独の大学が運営するものとしては全国初の拠点です。EUIJ 早稲田は、既存のコンソーシアムと提携し、今後の多角的な日・EU関係の強化を目指します。

目 的

■ 学術・教育活動

EUIJ 早稲田は、EUに関する知識を持った優秀な人材を多数輩出するべく、早稲田大学のオープン教育センターを通じて提供されるEU関連科目の拡充に努めています。その他にも学部学生を対象としたエッセイ・コンテストや大学院生を対象とした奨学金の授与など、学生が広くEUについて学ぶきっかけをつくる活動を行っています。

■ アウトリーチ

EUIJ 早稲田は、国際シンポジウムやEU高官による講演会を実施するほか、国会議員や官僚との研究会やワークショップを開催しています。日本社会に広くEUに関する知識を伝達し、日本社会のEU理解を深めることが、アウトリーチ活動の目的です。また、これらの活動を通して日本とEUの間の「人と人との交流」も活発に行われています。

■ EU共同リサーチプロジェクト

研究開発はEUの掲げる政策の大きな柱のひとつです。EUIJ 早稲田は、日本とEUの学術交流の拡大に貢献するべく、早稲田大学と欧州の大学間の3つの理工系共同プロジェクトを支援しています。また2つの社会科学系の共同プロジェクトについても、積極的な支援を行っています。

■ 他のEUセンターとの協働

世界には、EUIJ 早稲田と同様にEUの助成金を受けている「EUセンター」が32拠点あります。EUIJ 早稲田は、特に日本国内にある他のEUセンター (EUIJ 関西・EUSI 東京) と情報交換し、様々な協力を重ねています。また、世界のEUセンターが一堂に会する国際会議に出席し、EUセンターが共同で実施する国際プロジェクトにも積極的に参加していきます。

総長からのごあいさつ

日本とEUの架け橋へ

早稲田大学は、創立130周年を前に、日本の大学としての存在を超え、グローバルユニバーシティとして、人類と地球社会に貢献できる人材を育成していくこと、そして世界のあらゆる地域から学生や教職員が集まる大学として発展することを目指しています。現在600余の海外の大学・教育研究機関と研究者および学生の交流協定を結び、協定外の留学を含めて、これまでに40,000名近い外国人学生を受け入れ、年間1,700名の早大生を外国に送り出しています。

2009年4月、早稲田大学は、日本と欧州連合（EU）の更なる学術協力および教育交流を促進するための拠点として、EUIJ早稲田を開設しました。本学とEUは、それ以前から、政治経済に焦点を当てた日・EUフレンドシップウィーク・シンポジウム、EU出身ビジネスパーソンを対象とした日本研修プログラ

早稲田大学総長

鎌田 薫



ム（ETP）、さらには理工系研究者によるEU研究・技術開発枠組み計画（FP）等において協力関係を築いてきました。EUIJ早稲田は、学部や大学、更には学術界の枠を超え、政界・官界・産業界そして広く市民社会と連携し、グローバルな課題に日本とEUが協働して取り組むための体制構築を目指しています。EUIJ早稲田の活動が、世界で活躍する人材の養成という本学の目標を実現する上で大きな役割を果たすことはもちろん、早稲田とEU、そして日本とEUとの大きな架け橋となるものと確信しています。

代表からのごあいさつ

日欧関係とEUIJ早稲田

2009年12月リスボン条約が発効し、EUでは経済危機の教訓から「経済ガバナンス」の制度化が進められています。EUはいかに変化し、日本はどのようにEUと向き合い、今後の日欧協力関係を強化していけばよいのでしょうか。

グローバル化する国際社会の中でEUという超国家的レベルで政策展開を図るほうが加盟国にとっても有効である分野が拡大しつつあります。また、日本とEU諸国は、高齢社会の進展や、雇用・失業対策、金融・経済危機への対応など、多くの共通の問題を抱えています。これらの問題は、日欧相互の政策協力や、互いの政策を参考とすることによって解決できる場合も少なくないため、研究協力が不可欠となります。

EU研究を志す場合、EUの機構や政策決定の仕組みについての基礎をおさえたいうえで、加盟国との関係を明らかにし、複数専門領域を包括的かつ体系的に学ぶ必要があります。そこで早稲田大学では、日欧研究機構とその傘下にあるEUIJ早稲田を中心とし

EUIJ早稲田代表
早稲田大学EU研究所所長

福田 耕治



て、各学部や大学院の専門分野の垣根を超え、文理融合した学際的な教育研究活動を展開して、大きな成果をあげています。

本学では、日欧研究機構を核として、EUや欧州諸国に関する傑出した多数の研究者がおり、活発な研究活動を行っています。EUIJ早稲田は、学生や研究者そして市民社会との交流を行うことを通じて日欧の相互理解を深め、日欧に共通する課題解決のための協力を促進し、日欧関係のさらなる発展に寄与できる人材の育成を行っています。過去2年間の大きな成果を基礎に、さらなる日欧関係の発展を目指すとともに、日欧それぞれの重要性を認識し、日欧協力によるグローバル・ガバナンスへの貢献を目指しています。

I. 学術・教育活動

学部生対象

■ EU / 欧州統合研究修了証取得プログラム

本プログラムは、オープン教育センターにおける「EU / 欧州統合研究・テーマスタディ（全学共通副専攻）」という教育制度と連動しています。2010年度、本プログラムに設置された32科目については、それらをのべ2,100人の学生が受講しました。各科目は15回の講義で構成され、すべての科目につき、半期で2単位が与えられます。EU / 欧州統合研究修了証を取得するためには、コア科目から少なくとも4単位を取得して、合計で16単位以上を取得する必要があります。

2010年度、EUJ早稲田は、オープン教育センターのテーマスタディを修了した8名の学部生に、シュヴァイスグート駐日欧州連合代表部大使のレターを添えた独自の修了証を授与しました。修了生の所属学部は下記の通りです。

政治経済学部	1名	法学部	1名
教育学部	2名	商学部	1名
社会科学部	2名	国際教養学部	1名

■ 科目リスト

コア科目

1. EU政治経済統合のガバナンスと国際公共政策 / 福田 耕治 教授 他
2. EU科学技術政策 / 中島 啓幾 教授 他
3. EU/欧州統合研究【オンデマンド】/ 福田 耕治 教授 他
4. EU/欧州統合研究入門 / 福田 耕治 教授
5. EU国際公共政策の比較研究 / 福田 耕治 教授
6. EUとNATO / 片岡 貞治 准教授
7. EUとアフリカ諸国 / 片岡 貞治 准教授
8. 欧州統合の歴史 / 森原 隆 教授
9. EU法の歴史 / 中村 民雄 教授
10. EUと日本の政治関係 / 中村 英俊 准教授
11. EU共通外交・安全保障・防衛政策 / 中村 英俊 准教授
12. EUと旧ユーゴスラビア紛争 / 久保 慶一 准教授
13. EUの対バルカン政策 / 久保 慶一 准教授
14. European Integration and Foreign Policy / ポール・ベーコン 准教授

選択科目

15. フランスの新聞で読むEUの現在 / 岡山 茂 教授
16. ヨーロッパとは何か / 森原 隆 教授
17. EUの社会政策 / 引馬 知子 准教授（田園調布学園大学）
18. EU共通農業政策と東方拡大 / 弦間 正彦 教授
19. EUにおける人の移動と保健医療政策 / 福田 八寿絵 講師

20. EU諸国の経済政策 / 大門 毅 教授
21. EU統合とフランス文化 / 岡山 茂 教授
22. 北欧の研究 / 村井 誠人 教授
23. 国際行政学A 01 / 福田 耕治 教授
24. 国際行政学B 01 / 福田 耕治 教授
25. 国際機構論 01 / 中村 英俊 准教授
26. 国際行政論 01 / 福田 耕治 教授
27. 社会文化研究（ドイツ語） / 縣 公一郎 教授 他
28. EU法 I / 須網 隆夫 教授
29. EU法 II / 須網 隆夫 教授
30. 政治学I（国民国家とグローバリゼーション） / 久邇 良子 准教授（東京学芸大学）
31. EU地域研究 1 / 坪郷 實 教授
32. EU地域研究 2 / 坪郷 實 教授

EUJ早稲田は、下記の通り授業の一部を公開しました。

EU法の過去・現在・未来-新しい憲法思想？

講師：中村 民雄 教授

司会：福田 耕治 教授

日付：2010年7月16日（金）

参加者：130名

概要：中村教授は、EU法の発展を歴史的に振り返った。

ECにおいては、欧州司法裁判所（ECJ）の判決が、変容する社会に合わせて、独自の法秩序を動的に創出してきた。EUの成立により、欧州レベルの法は、経済的自由のみならず、政治・市民的権利も重視する市民社会の法へと変容・成長を遂げた。だがそこで、民主的正統性やEUと構成国の間の権限配分といった新たな問題も浮上した。最後に教授は法の支配に基づき、EU・EC法と加盟国法の並立・調整により形成される多元的な法秩序、あるいは越境・複合的政体としてのEUの構想を提示した。



EU国際公共政策の比較研究

演題1 「リスボン条約と欧州理事会」 富川 尚 准教授
(敬和学園大学)

演題2 「ヨーロッパ統合の理論とEU拡大の新段階」
東野 篤子 准教授 (筑波大学)

司 会：福田 耕治 教授

日 付：2010年12月14日 (金)

共 催：現代政治経済研究所EU部会・日欧研究機構EU研究所
参加者：20名

■ オンデマンド・コース

「3. 福田 耕治 教授他 EU/欧州統合研究」は、オンデマンド方式で提供される科目です。ヒュー・リチャードソン駐日欧州連合代表部前大使の講義も含まれています。



福田耕治教授の講義画面

大学院生対象

■ EU研究修了証取得プログラム

EUIJ早稲田は、オープン教育センターに2009年度に新設された大学院テーマカレッジ「EU・欧州統合研究」を通じて、夏季集中講座を含む6科目を提供しています。2010年度は、これらの科目をのべ20人の大学院生が受講しました。これらの大学院生には、EUIJ早稲田運営委員を務める教員の指導のもとで論文を書くことを奨励しています。2010年度、EUIJ早稲田は、一定の条件（大学院テーマカレッジ科目を1科目以上履修し、EUに関する修士論文を提出するという条件）を満たした政治学研究科大学院生6名に、シュヴァイスグート駐日欧州連合代表部大使のレターを添えた「EU/欧州統合研究修了証」を授与しました。

■ 科目リスト

1. EU機構と政策過程研究 / 福田 耕治 教授
2. EU国際公共政策の研究 / 福田 耕治 教授
3. 欧州統合理論の研究 / 中村 英俊 准教授
4. Contemporary Issues in European Integration
【夏季集中講座】 / 中村 英俊 准教授
5. The Politics and International Relations of the European Union / ポール・ペーコン 准教授
6. The Political System of the EU / 舒 旻 准教授

■ 夏季集中講座

EUIJ早稲田は、ベルリン自由大学クリスティアン・トゥッシュホフ特任教授を招き、8月23日(月)、24日(火)、26日(木)、27日(金)の4日間、大学院生を対象に欧州統合に関する夏季集中講座「Contemporary Issues in European Integration」を開講しました。「EUの政体、意思決定、ならびに加盟国への影響」(1日目)、「ユーロ、EUとそれを越えた経済危機」(2日目)、「共通外交安全保障政策」(3日目)、「リベラルな諸規範の拡散と諸地域の収斂対競争—なぜEUを模倣するのか」(4日目)に題する講義とセミナーが持たれました。

各日午前中に開催されたトゥッシュホフ教授の講義は、事前登録した学生に限らず、広く一般の学生にも公開されました。午後のセミナー形式の授業は、事前に正式登録した学生のみが参加しました。この午後のセミナーに向けて、トゥッシュホフ博士はリーディング・リストおよびエッセイの課題を提示し、事前登録した学生は4つ以上のエッセイを提出しました。



学部生対象EUエッセイ・コンテスト

EUIJ早稲田は、第2回「EUIJ早稲田 エッセイ・コンテスト」を実施し、応募作を選考後、下記の通り賞を授与しました。

最優秀賞：根岸 陽太氏（法学部）「安保理決議に基づく「対テロ制裁レジーム」に対するEU司法裁判所の司法審査—Kadi事件を中心に—」

優秀賞：Ms. Eszter Czéh（国際教養学部）"Progress Drown in Mud: The Price of Corruption in Central and Eastern European Member States"

佳作：石田 健氏（文学部）「EUの文化政策における商業主義と欧州市民概念—欧州文化首都とリバプールを中心に—」
森井 愛子氏（国際教養学部）"Need for Stronger Political Solidarity in Europe"
Ms. Sina Guo（国際教養学部）"The Nordics and the EU: Economic Factors, Foreign and Security Policy"

修士課程・博士課程学生対象EU調査奨学金

EUIJ早稲田は、EU研究およびEUが研究を奨励する分野について、EU域内での調査を計画する優れた修士課程生・博士課程生に、奨学金を支給しています。

小菅 宏幸氏（商学研究科修士課程商学専攻）
藤崎 弘一氏（政治学研究科博士後期課程政治学専攻）
尾崎 敦司氏（政治学研究科博士課程比較政治専攻）

佐藤 侑子氏（政治学研究科修士課程政治学専攻）
齋藤 理恵氏（文学研究科博士後期課程人文科学専攻）

小菅 宏幸氏（商学研究科修士課程商学専攻）

調査目的：日系企業の海外市場動向について、日本貿易振興機構（ジェトロ）のベルギー・ブリュッセルセンターとドイツ・デュッセルドルフセンターで、インタビュー調査を実施。

期 間：2010年8月26日～12月27日



WHU経営大学院



EU本部（ブリュッセル）

佐藤 侑子氏（政治学研究科修士課程政治学専攻）

調査目的：エリゼ条約成立に関する修士論文執筆にあたり必要な未公開の一次史料を、フランス外務省およびドイツ外務省で入手。

期 間：2010年10月10日～10月17日



ドイツ外務省アーカイブで使った史料の一部です。

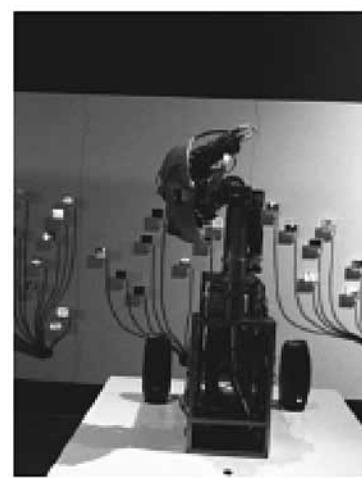
齋藤 理恵 氏（文学研究科博士後期課程人文科学専攻）

調査目的：オーストリア、フィンランド、ドイツのメディア映像芸術に対する文化政策について、インタビュー調査などを実施。

期 間：2010年9月13日～12月5日



ドイツ、タヘレスの外観と、内部の様子。いずれもグラフィティ・アートで埋め尽くされている。



オーストリア、アルス・エレクトロニカ・センターの中には、様々なメディア技術を用いた展示がある。

藤崎 弘一 氏（政治学研究科博士後期課程政治学専攻）

調査目的：第二次大戦直後におけるイギリス政府の西欧政策について、一次史料に基づいた歴史実証研究を行うために必要な史料を、英国国立公文書館などで収集。

期 間：2010年8月23日～10月3日



イギリス政治経済学図書館

尾崎 敦司 氏（政治学研究科博士課程比較政治専攻）

調査目的：イタリアにおける欧州議会と国内議会の選挙に関する情報を、ミラノ大学・社会・経済・大学院で収集

期 間：2010年10月1日～12月10日

Ⅱ. アウトリーチ

EUIJ早稲田ウェブサイト

EUIJ早稲田は、イベントの案内や終了した活動の報告、講義の概要などをウェブサイトに掲載しています。詳しくはウェブサイトをご覧ください。

<http://www.euij-waseda.jp/>



国会議員

2011年2月現在、99名の国会議員が早稲田大学の卒業生です。福田康夫元首相、森喜朗元首相、海部俊樹元首相、河野洋平前衆議院議長なども早稲田大学出身者です。早稲田大学とその卒業生との絆の強さは、EUIJ早稲田の政界でのアウトリーチ活動を支え、EUと日本の国会関係者との関係をより強固なものとしています。

■ 国会議員と外交官の意見交換会

鈴木寛文部科学副大臣との朝食会

列席者：EU代表部及びEU加盟国大使館担当者

日付：2010年11月26日（金）

場所：ホテル・ニューオータニ

言語：英語（逐次通訳）

参加者：22名

概要：鈴木副大臣は、「コミュニティ・スクール」について紹介した。コミュニティ・スクールとは、地域住民の学校運営への参加に特徴づけられ、目下、文部科学省が設置を促進している学校のことである。この文部科学省の政策は、鈴木副大臣によれば、鳩山前首相が導入した政策概念・目標としての「新しい公共」と関連している。鈴木副大臣のプレゼンテーションの後、EU代表部及びEU加盟国大使館からの参加者の質問は、日本の市民社会の拡大・進化の現状に集中し、活発な意見交換が行われた。

若手国会議員との朝食会

テーマ：日・EU関係の現状と課題

列席者：中林 美恵子 衆議院議員、緒方 林太郎 衆議院議員、平智之 衆議院議員

日付：2011年3月8日（火）

場所：ホテル・ニューオータニ

言語：英語

参加者：11名（EU連合代表部スタッフ、EUIJ早稲田代表含む）

概要：本朝食会では、国会議員とEU代表部の外交官が、幅広い観点から、よりよいグローバル・ガバナンスに貢献しうる日・EU関係について意見交換した。そこでは気候変動、人権に関する諸問題、安全保障、その他日・EU協力の潜在的分野、あるいは欧州統合のアジアの統合へのインスピレーションなど、自由な議論が起こった。次回は本朝食会で話題になった具体的な諸分野について、個別に議論できるよう

な場がもたれることが、参加者からEUJに期待され、会が閉じられた。



■ 国会図書館立法スタッフの勉強会

ギリシャ財政危機について

講師：田辺 正実氏（駐日欧州連合代表部）

講師兼司会：福田 耕治 教授

日付：2010年7月7日（水）

場所：国立国会図書館

参加者：10名

概要：ギリシャ財政危機に関し、まず田辺氏が、EU諸機関とIMFの対応を講義した。ギリシャは、2010年1月に「安定・成長計画」を理事会に提出した。これに応じて、ユーログループとIMFがユーロの協調融資を、EU理事会が欧州金融安定化メカニズムの創設を決定した。次に福田教授が、政治学的見解を示した。教授によると、金融政策と経済・財政政策におけるEUと加盟国がもつ権限の不一致を補うことを目的に、1997年に「安定・成長協定」として財政規律が定められた。だがこの財政規律は、緩められている。危機後も金融財政政策の一体化の兆し

はみえない。EUの支援に関し、ドイツはギリシャのモラル・ハザードを懸念している。参加者からの質問は危機からの回復の見込みに集中した。

リスボン条約以後のEUの法・制度

講師：中村 民雄 教授

日付：2010年10月29日（金）

場所：国立国会図書館

参加者：51名（衆参議員スタッフ11名含む）

人の国際移動に関するEU対外関係政策

講師：岡部 みどり 准教授（上智大学法学部）

司会：福田 耕治 教授

日付：2011年1月14日（金）

場所：国立国会図書館

参加者：10名

概要：岡部准教授は、EU出入国管理政策にみる境界、あるいはEUの域外包摂について講義した。EUに包摂される側は、シェンゲン規範の影響力に応じ、(1) シェンゲン協定の締結国を中心に、(2) 規範的、(3) 外交的、(4) 委任的な4つのゾーンが特定できる。Zone 2はEU加盟候補国であり、大きな影響を受ける。Zone 3はEU加盟申請国および近隣政策の対象地域であり、例えばモルドヴァとEUの関係には、国境管理政策をめぐる外交的な成果が確認できる。Zone 4はサブ・サハラ諸国であり、EUは国際移動者の流入阻止のための「移動マネジメント」の有効手段として、開発支援を実施している。

中央省庁官僚

EUJ早稲田は、EUの政策課題に関わりを持つ部局で働く中央省庁の官僚の皆さんが、EUの特徴や目的について理解を深めることに寄与しています。

■ 外務省欧州局との協力によるセミナー

第1回EUセミナー：日本とEUのEPA—グローバルなFTAの動向との関連で

講師：寺田 貴 教授（アジア研究機構）

ディスカッサント：曾根 健孝氏（外務省経済局国際経済課長）

日付：2011年3月22日（火）

場所：霞山会館

参加者：14名

概要：アジア太平洋地域でFTAによる地域統合が進められる中、日本では、EUとのFTA交渉の機運が高まっている。寺田教授は、(1) EUのFTA戦略、(2) 日EU間のFTA、(3) 韓EU間のFTAの意義、(4) TPPがEU戦略にもたらす影響などについて講義した。寺田教授によれば、EUとのFTAは日本に利益をもたらす。ディスカッサントである外務省経済局の曾根国際経済課長は、EUとのFTAが非関税障壁

など幅広い分野をカバーしうることに触れ、日本政府の規制改革の論議も関連するといいい、2011年5月の日EU首脳協議で「交渉入り」の合意を目指す述べた。

■ 中央省庁官僚による講演会

ギリシャ財政危機とそのコンテキスト

講師：林 伴子氏（内閣府参事官海外経済担当）

司会：中村 英俊 准教授

日付：2010年6月21日（月）

参加者：170名

概要：林氏は、ギリシャ財政危機の原因、危機の拡大と影響、危機から得られる教訓について講演した。この危機に際し、欧州中央銀行とIMFなどによる支援策と経済財政理事会による欧州金融安定化メカニズムの創設が決定されたが、未だ好転の兆しはみられ

ない。経済のマイナス成長、高い失業率、財政再建に対する国民の過半数の反対も課題である。PIIGS諸国だけでなく、欧州全体の金融の健全性への悪影響も懸念される。林氏は、この危機から我々が学べる教訓として、景気回復期の財政再建の必要性、財政規律メカニズム（安定・成長協定）の見直し、市場による規律を過信すべきでないこと、一度失われた統計への信頼回復の困難さなどを指摘した。



日・EU関係の現状—第19回日・EU定期首脳会議を終えて—

講師：栗山 淳氏（外務省欧州局政策課課長補佐）

司会：中村 英俊 准教授

日付：2010年7月9日（金）

参加者：360名

概要：栗山氏は、EUの現状、及び日・EU関係の歴史と将来について講演した。国際社会におけるEUの発言力・影響力は重大であり、また世界経済に占めるEU経済の規模も極めて大きい。EUとの連携・協力は、日本にとって不可欠である。日・EU対話の枠組みは、1991年の日・EU共同宣言で作られた。以来定期首脳会合が持たれ、2001年には日・EU行動計画が定められた。2010年は新たな出発の年とされ、合同ハイレベルグループも設置された。日・EUの政治協力としては、例えば中央アジアでの国境管理強化プロジェクトが実績の一つである。だが、EPA交渉における関税引き下げや、政府調達を含む非関税障壁の問題など、経済分野での協力は順調とは言い難い。



ビジネス界

EUIJ早稲田は、ビジネス界を対象にしたアウトリーチ活動を展開しています。2010年度は早稲田大学Digital Campus Consortium (DCC) 産学交流フォーラムへ参加致しました。

日本と多国間外交：ASEMとAPECを事例に

講演者：大久保 雄大氏（外務省欧州局アジア欧州協力室
(ASEM室) 室長）

寺田 貴 教授（アジア研究機構）

司会：中村 英俊 准教授

日付：2010年11月10日（水）

参加者：80名

（本イベントの概要は、ウェブサイトをご覧ください。）

[http://www.waseda.jp/dcc/4th/event/forum_201011.html]

市民社会と学生

■EU高官と知識人

EUIJ早稲田は、EUの高官、及び知識人らが行う講演会を支援しています。一般市民や学生が広く参加できるよう、ほとんどの講演には同時通訳を用意しています。

リスボン条約と議長国ベルギー

講師：フレデリック・ヴェレイデン氏

（駐日ベルギー王国大使館公使参事官）

司会：片岡 貞治 准教授

日付：2010年7月7日（水）

言語：英語

参加者：100名

概要：ヴェレイデン氏は、EU議長国としてのベルギーに関し講演した。ベルギーは「レガシー・プログラム」を、リスボン条約の発効及び施行と、重要性において同一レベルの課題と宣言した。2010年10月にブリュッセルで開催されるASEM首脳会合、同じく10月に名古屋で開催される生物多様性条約第10回

締約国会議（COP10）は、議長国ベルギーにとってとりわけ重要である。加えて、EU議長国としてのベルギーは、EUの財政メカニズムを安定化させ、と同時に先進・途上国間の不平等を低減させなければならない。EUは民主的かつ効率的でなければならない。一方で先進国が衰え、他方で新興国が台頭する国際社会のバランスを保つために、EUはリーダー的役割を務める必要がある。

欧州統一とドイツ

講師：ヨシユカ・フィッシャー氏
 （ドイツ連邦共和国 元副首相兼外務大臣）

司会：縣 公一郎 教授（政治経済学術院）

日付：2010年10月8日（金）

言語：ドイツ語（同時通訳）

参加者：450名

概要：フィッシャー氏によれば、1945年以降のヨーロッパでは、従来の力の均衡ではなく、共通機関への国家主権の一部移譲という革新的なアイデアが生まれた。このアイデアがEUの基礎になり、ドイツもその一員になった。EUの最大の成果は、大陸に平和をもたらしたことである。その例としてフィッシャー氏は、バルカン半島での紛争に際し、ドイツが第二次大戦後初めて国外に軍を派遣したことを挙げた。またフィッシャー氏は、教育、社会福祉を取り上げ、金融・経済危機の時代においても、国家の資金を投入する制度の必要性を説いた。また、欧州統合の一層の深化とトルコの加盟を強力に支持した。欧州への移民の受け入れ、あるいは「ヨーロッパとイスラム」の問題に触れ、双方からの統合が重要であると述べた。最後にフィッシャー氏は、「最終目標」を常に見つめ達成するための現実主義の重要性を主張し講義を終えた。



■その他の講義

EUJ早稲田に所属する教員は、市民社会のさまざまな分野にEUに関連した講義を提供しています。たとえば、大学の入学センターと連携して高校生を対象に模擬講義を行い、また、地方自治体と連携して一般市民に向けた講義を行います。

高校生対象の模擬講義

早稲田を知る in 大分 早稲田大学地域交流フォーラム：国際社会におけるEUと日本

講師：中村 英俊 准教授

日付：2010年7月11日（日）

場所：大分県トキハ会館

参加者：90名

群馬県立前橋高等学校：物理学はいかに世界を変えてきたか

講師：中島 啓幾 教授

日付：2010年11月17日（水）

場所：群馬県立前橋高等学校

参加者：50名

自治体首長対象の講義

稲門市長会への講師派遣：EUの政策協力とマルチレベル・ネットワーク・ガバナンスー地域政策・構造政策・空間政策を事例としてー

講師：福田 耕治 教授

日付：2010年6月8日（火）

場所：リーガロイヤルホテル東京

参加者：約50名

一般市民対象の講義

佐倉国際交流基金（国際文化大学）への講師派遣：地域共同体と国家主権

講師：福田 耕治 教授

日付：2010年6月12日（土）

場所：千葉県佐倉市中央公民館

参加者：約140名



国際シンポジウム

EUIJ早稲田は一連のアウトリーチ活動の一部として、国際シンポジウムを開催しています。シンポジウムでは、専門家が参加する、時に非公開の学術的なセッションが持たれることがあります。しかし、中心となるのは一般市民や学生を対象にしたオープンなセッションです。

■日・EU フレンドシップウィーク・シンポジウム

「リスボン条約後のEU：拡大と深化」

開会の辞：谷藤 悦史 教授（現代政治経済研究所所長）

挨拶：バーバラ・ローデ氏

（駐日欧州連合代表部公使参事官、科学技術部長）

基調講演：ヤン・ジロンカ 教授（オックスフォード大学）

講演：ディミタル・ペーチェヴ 客員准教授（一橋大学）

ディスカッサント：羽場 久美子 教授（青山学院大学）

ハートムット・マイヤー教授

（オックスフォード大学／一橋大学客員教授）

司会：中村 英俊 准教授

日付：2010年5月14日（金）

言語：英語

参加者：265名

主催：現代政治経済研究所、EUIJ早稲田

後援：駐日欧州連合代表部

概要：基調講演において、ジロンカ教授は、EUの東方拡大の最も根本的なインプリケーションが、民主主義、経済ガバナンス、外交問題の分野に認められることを示した。欧州統合の深化の度合いが、EUの結束、収斂、融合の度合いの高さにより測られれば、拡大による欧州の広域化は統合の深化と矛盾関係にあるといえる。だが拡大は、EUが近隣諸国の不安定性に対処する効果的な手段でもある。したがって、拡大によるEUの多様化は、統合の終焉であるとはいえない。我々は、拡大した欧州を統治する、より多面的で柔軟なガバナンスについて考えることを促されている。そして、EUはその新しい様態のガバナンスに自らを適合させねばならず、また実際にそうしつつある。この新しい様態のガバナンスとは、市民によるガバナンスでもある。



■その他EUIJ早稲田シンポジウム

日EUの政治協力と共同のグローバルな責任

報告者：トーマス・リッセ 教授（ベルリン自由大学）

ターニャ・ベルツェル 教授（ベルリン自由大学）

ハートムット・マイヤー 教授

（オックスフォード大学／一橋大学）

ファブリス・ヴァレイユ 氏（駐日欧州連合代表部）

中村 英俊 准教授（司会兼）

ディスカッサント：舒 旻 准教授（国際学術院）

日付：2010年4月9日（金）

言語：英語

参加者：40名

概要：マイヤー教授は、グローバル・ガバナンスの担い手として日本とEUが協力を通して果たす役割を考える枠組みとして、世界秩序について10の、EU対外政策について5つのシナリオを示した。中村准教授は、システム及びユニット・レベル双方を分析することの重要性を指摘し、日・EUの行動様式を分析する概念として「責任ある民生パワー」を提示した。リッセ・ベルツェル両教授は、地域統合のモデルとしてのEUの構成要素を包括性と法制化であるとし、報奨、説得、キャパシティー・ビルディングというEUモデル伝播・普及の3つのメカニズムを示した。ヴァレイユ氏は、日EU関係を概観し、リスボン条約以後も日・EU協力は発展するという見通しを示した。

<公開講演会>：日EUの政治協力と共同のグローバルな責任

講師：トーマス・リッセ 教授（ベルリン自由大学）

司会：中村 英俊 准教授

日付：2010年4月8日（木）

言語：英語

参加者：100名

概要：翌日のシンポジウムのために来日したリッセ教授を招き、公開講演会も開催した。リッセ教授は、EUの特徴を理解するため、国際機構と国家との共通点と相違点を論じた。EUは、一方でその超国家性を考慮に入れると、国際機構とは大きく異なる。加盟国は、自らの意思に反し、多数派に従わなければならないこともある。他方でEUは国家とも異なり、暴力手段を独占しておらず、財政的能力にも乏しい。加盟国の合意に基づき運営される政体であり国家ではない。加えて教授は、多層的ガバナンスの概念も紹介した。教授によれば、EUの外交政策は、安全保障政策に限定されず、通商、開発、環境など、

多岐に渡る。また、多国間主義、民主主義、人権を重視してきたEUは、「民生パワー」として特徴づけることができる。



個人通報制度に関するワークショップ

報告者：ポール・グリーン

(元国際法律家委員会メンバー、英国政府高官)
オルショヤ・マカール (ハンガリー共和国 政府高官)
ベトル・コスブカ (チェコ共和国 政府高官)
メルセデス・モラレス (国連人権高等弁務官事務所)
ルーランド・ベッカー (オランダ王国 政府高官)
武村 二三夫 弁護士 (日本弁護士連合会 自由権規約個人通報制度等実現委員会副委員長)
申 恵 豊 教授 (青山学院大学法学部法学科)

司 会：マイケル・オフラハティ 教授

(国連自由権規約委員会委員)

日 付：2010年11月4日 (木)

言 語：英語

主 催：駐日欧州連合代表部、EUIJ 早稲田

共 催：早稲田大学法学学術院

参加者：15名



日本の人権と国連条約シンポジウム

講 師：マイケル・オフラハティ 教授

(国連自由権規約委員会委員)

オーベ・プリング 名誉教授

(スウェーデン国立防衛大学、ストックホルム大学)

メルセデス・モラレス (国連人権高等弁務官事務所)

大谷 美紀子 弁護士

(日本弁護士連合会 国際人権問題委員会副委員長)

武村 二三夫 弁護士 (日本弁護士連合会 自由権規約個人

通報制度等実現委員会副委員長)

江島 晶子 教授 (明治大学法科大学院)

ポール・グリーン

(元国際法律家委員会メンバー、英国政府高官)

ベトル・コスブカ (チェコ共和国 政府高官)

ゲルハルト・タリンガー

(オーストリア共和国 政府高官)

オルショヤ・マカール (ハンガリー共和国 政府高官)

ルーランド・ベッカー (オランダ王国 政府高官)

司 会：第一部：萬歳 寛之 准教授 (法学学術院)

第二部：岩澤 雄司 教授

(東京大学、国連自由権規約委員会委員長)

日 付：2010年11月4日 (木)

言 語：日本語及び英語 (同時通訳)

主 催：駐日欧州連合代表部、EUIJ 早稲田

共 催：早稲田大学法学学術院

後 援：国際連合広報センター

参加者：500名

開会の辞：白井 克彦 教授 (早稲田大学総長)

ステファン・フーパー 氏

(駐日欧州連合代表部臨時代理大使)

山花 郁夫 衆議院議員 (外務大臣政務官)

概 要：オフラハティ氏は、国連人権条約が人権保障に及ぼす影響について論じ、同時に日本の現状と関連づけながら、国連人権システムの改革についても論じた。国連人権諸条約が設置する委員会では、国家からの報告と個人からの通報が審査されている。締結国の増加に比して、個人通報制度を導入した国は少ない。例えば日本はどの条約の個人通報制度も取り入っていない。ただし日本でも、諸条約の批准を経て、多くの関連省庁とNGOが関与し、人権状況の改善に関する議論が高まっている。国連レベルで、条約委員会の改善・改革も進みつつある。オフラハティ氏の講演の後、モラレス氏は、締結国の増加とともに通報数は大きく増加しているものの、委員会を取り扱う件数は増えておらず、通報の過剰という日本当局の懸念は、制度それ自体を導入しない理由にならないとコメントした。大谷氏は、個人通報制度を通じた、弁護士による人権保障への貢献の可能性を指摘した。



死刑制度：世界から見た日本

講師：保坂 展人 氏（前衆議院議員、元死刑廃止議連事務局長）
ロジャー・フッド 教授（オックスフォード大学名誉教授）
ソール・レフロインド 弁護士
（英国NGO「ザ・デス・ペナルティー・プロジェクト」）
パーベイス・ジャバー 弁護士
（英国NGO「ザ・デス・ペナルティー・プロジェクト」）
バート・ステパー 氏
（アムネスティ・インターナショナル・オランダ元代表）
布施 勇如 氏（研究者）

司 会：ドミニク・アルバドリ 氏

（駐日欧州連合代表部政治分析官）

日 付：2010年11月25日（木）

言 語：日本語及び英語（同時通訳）

参加者：170名

概 要：保坂氏は開会挨拶において、このシンポジウムが裁判員制度と死刑の関連性を考える上で重要な機会であると述べた。フッド教授は講演の中で、多くの国々で死刑の廃止が普遍的に受け入れられつつある背景として、欧州の民主化、脱植民地化、人権条約の影響、各国の民主的な憲法を挙げた。死刑廃止は、政治的なリーダーシップを要するとし、政府が一般市民に情報を与え、人権を尊重する機運を高め、死刑の廃絶に導く必要性を指摘した。イスラム教国やアジア諸国でもモラトリアムが施行され、執行数も急減している。死刑廃止は、人権という道徳的な力により世界中で推進されており、フッド教授によれば、今後、日本のような死刑存置国はより孤立し、廃止に向けた圧力に晒される。



Copyright: British Embassy Tokyo

国際ワークショップ「東欧・オーストリアの憲法裁判の現況と展望」

外国人参加者：

Dr. Schnutz Rudolf Dürr

（ヨーロッパ評議会ヴェニス委員会事務局憲法裁判部長）

Ms. Krisztina Kovacs（ハンガリー憲法裁判所調査官）

Ms. Diana Mecsi（ハンガリー憲法裁判所長官室長）

Dr. Ivo POSPÍŠIL（チェコ憲法裁判所調査部長）

Dr. Claudia Fuchs（ウィーン経済大学）

Dr. Christoph Bezemek（ウィーン経済大学）

Prof. Dr. Herbert Küpper

（東欧法研究所、名古屋大学国外研究員）

司 会：戸波 江二 教授（大学院法務研究科）

小畑 郁 教授（名古屋大学大学院法学研究科）

日 付：2010年11月25日（木）

言 語：英語

主 催：ヨーロッパ人権裁判所判例研究会

（研究代表：小畑 郁 名古屋大学教授）

後 援：早稲田大学比較法研究所、EUIJ早稲田

参加者：20名



Ⅲ. EUとの学術交流

早稲田大学は、EU27加盟国のうち、22カ国112の高等教育・研究機関と交流協定を結んでいます。2010年は、444人の学生をEU諸国に送り出し、逆に197人の学生をEU諸国から受け入れました。

研究交流も活発です。2008年から2009年まで、EU諸国から50人程度の研究者を受け入れていましたが、その数は2010年に62人へと増えました。同じ2010年には、35人の研究者を早稲田から送り出しました。EUIJ早稲田は、このネットワークを活用して研究者間の交流を促進させるとともに、日本で開催されるセミナーやシンポジウムへの活発な参加を奨励しています。

科学技術系

早稲田大学理工学術院は、日本政府からさまざまな助成金を受け、欧州の研究者と活発な学術交流を行っています。下記の3つのプロジェクトは、近い将来に日本とEUの関係の発展が見込まれる、潜在性の高い政策領域に関連しています。

プロジェクト1と2は、新しく設立された「東京女子医科大学・早稲田大学連携先端生命医科学研究教育施設」（通称「TWIns」）の下で組織されています。EUIJ早稲田は、早稲田大学とヨーロッパ研究者間の学術交流を支援しています。

■ プロジェクト1 「高齢化社会のためのロボット・テクノロジー」

プロジェクトの概要

プロジェクト・リーダー：藤江 正克 教授

（理工学術院創造理工学部総合機械工学科）

共同研究者：Paolo Dario 教授

（聖アンナ高等研究院（イタリア）

生物医学的ロボット工学研究）

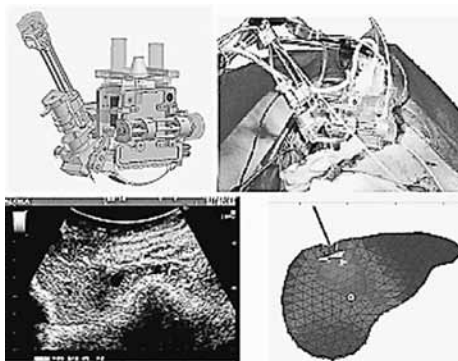
研究内容：

超高齢化社会の始まりとともに、健康・福祉などの生活支援分野におけるロボット・テクノロジーの実際的な利用や、新しい主要産業を生み出していくことが期待されています。日本はロボット・テクノロジーにおいて主導的な役割を担う国で、研究を更に発展させていくことや社会的インフラに具体的に活かしていくことが必要とされています。

藤江教授は、卓越した研究拠点（GCOE）プログラム

のひとつとして文部科学省から認可された「グローバル・ロボット・アカデミア」のプロジェクト・リーダーです。このプロジェクト研究所は、社会・人々と機械システムとの新しい関係を創り出すようなロボット・テクノロジーについて体系的な理論を構築し、科学技術工学の様々な分野を統合してロボット工学を発展させています。

このプロジェクト研究所では、若い才能を育てる様々な試みが行われています。たとえば、韓国の知能ロボット学センター・科学技術研究所やイタリアの聖アンナ高等研究院と協定が結ばれているほか、2008年9月には、ドイツのカールスルーエ大学、米国のカーネギー・メロン大学、香港科学技術大学、早稲田大学の4大学間で協定が交わされました。この協定は「インター・アクト」として知られています。これらの協定が用意する制度を利用して、若手研究者が海外で多くの経験を重ね、教育と研究において海外の研究機関と確固たる協力関係を構築していくことが期待されています。



■ プロジェクト2

「環境保護のためのマリンバイオテクノロジーとメタゲノム」

プロジェクトの概要

プロジェクト・リーダー：竹山 春子 教授

(理工学術院先進理工学部生命医科学科)

共同研究者：Joern Piel 教授

(ボン大学ケクレ有機化学学生化学研究所)

研究内容：

本プロジェクトでは、マリンバイオテクノロジーとメタゲノムが環境保護に有効性をもって貢献する方法を研究しています。竹山教授はこの分野における一流の学者として知られ、このプロジェクトが地球温暖化や気候変動の問題を扱う際に重要な役割を担うと予想しています。教授は現在、共同研究者を探しながら、ヨーロッパ横断的な権威ある研究ネットワーク「マリン・ゲノミクス・ヨーロッパ (MGE)」で研究を行っています。MGEは、生命科学、生態学、環境学、情報科学の橋渡し役を担っています。MGEは欧州委員会の第6次枠組み計画 (FP6) のもとに設置され、海洋生物体を扱う生物学において、高度な処理を行うゲノミック・アプローチの実施を目指しています。詳しくは以下のページを参照ください。

<http://www.marine-genomics-europe.org/>

■ プロジェクト3

「産学官コラボレーションのモデルとしてのフォトニクス」

プロジェクトの概要

プロジェクト・リーダー：中島 啓幾 教授

(理工学術院先進理工学部、研究戦略センター所長)

共同研究者：Hugo Thienpont 教授

(ブリュッセル自由大学 応用物理学フォトニクス)

研究内容：

フォトニクスは、電気・データ通信、カメラ、生物工学、太陽エネルギー、医療機器、レーザー加工などの産業界で幅広く用いられる主要理論です。EUIJ早稲田は、フォトニクス技術の研究・発展から生じるより緊密な協力や、主要産業界におけるフォトニクスを用いての問題解決を通じて、日本とEUの協力関係がますます促進されると考えています。

中島教授とThienpont教授はいずれもフォトニクスにおける権威です。Thienpont教授が所属するブリュッセル自由大学は、フォトニクスにおけるエラスムス・ムンドゥス理学修士プログラムを開設しており、グローバルな学術交流を展開してきました。中島教授は、日本とEUの研究協力関係を一層強化するとともに、エラスムス・ムンドゥス・プログラムを通じたより多くの修士・博士課程学生の学術交流をはかっていくことに意欲を示しています。

■ 国際ワークショップ

第6回GCOE-GRAワークショップ Intelligent Control and Robotics: An overview of research at Delft Center for Systems and Control

日付：2010年7月26日 (月)

場所：早稲田大学先端生命医科学センター (TWInS)

言語：英語

講師：Robert Babuska 教授 (デルフト工科大学)

参加者：24名

本イベントの概要はウェブサイトをご覧ください。

http://www.rt-gcoe.waseda.ac.jp/japanese/research/seminar/_4gcoe-gra_robert_babuska_3.html

第8回GCOE-GRAワークショップ Activities and experiences at DIEES Robotic Laboratory of University of Catania

日付：2010年8月30日 (月)

場所：早稲田大学先端生命医科学センター (TWInS)

言語：英語

講師：Domenico Longo 教授 (カタールニア大学)

参加者：30名

本イベントの概要はウェブサイトをご覧ください。

http://www.rt-gcoe.waseda.ac.jp/japanese/research/seminar/_8gcoe-gra_domenico_longo.html

ノーベル賞受賞者による講演会「A Message for the Young Generation: the Need for True Innovation」

日付：2010年10月6日 (水)

言語：英語

講演者：カルロ・ルビア 教授

(欧州合同原子核研究機構、ノーベル物理学賞受賞者)

参加者：350名

イタリア大使館との共催セミナー：“Robotics and Education in Italy and Japan”

日付：2010年12月4日 (土)

言語：英語

報告者：山川 宏 教授 (理工学術院 創造理工学研究所)

Giovanni Muscato 教授 (カタールニア大学)

岩田 浩康 准教授 (高等研究所)

西村 明浩氏 (株式会社ゼットエムピー)

Dr. Michele Guarnieri (株式会社ハイボット)

野村 泰朗 教授 (埼玉大学)

Mr. Nunzio Abbate (STMicroelectronics)

佐藤 知正 教授 (東京大学)

Dr. Pericle Salvini (聖アンナ高等研究院)

藤江 正克 教授

(理工学術院創造理工学部総合機械工学科)

橋本 周司 教授 (理工学術院先進理工学部)

司会：マッシミリアーノ・ゼッカ 准教授

(理工学術院国際教育センター)

参加者：80名

■ EU法に関する早稲田ーボン・プロジェクト

本プロジェクトは、須網隆夫教授（法学学術院）とMatthias Herdegen所長（ボン大学公法研究所）を中心とする、国際経済法、国際通商法、EU法の分野にわたる共同研究です。「グローバル金融危機によってもたらされた日・EU関係における法的課題」をテーマとする書籍の出版を目的にしています。日本とEUが国際通商規制のための法的枠組み形成に際して直面するさまざまな課題に焦点を当てたワークショップを2010年10月に開催しました。

早稲田大学におけるボン大学デー：日独法学コロキウム

挨拶：田山 輝明 教授（常任理事、大学院法務研究科）

報告者：ヨハネス・ケンドッゲン 教授（ボン大学）

ウルフ＝ヘニング・ロート 教授（ボン大学）

マティアス・ライストナー 教授（ボン大学）

マティアス・シュミット＝プロイス 教授（ボン大学）

加藤 哲夫 教授、石田 京子 助教（大学院法務研究科）

土田 和博 教授（法学学術院）

江泉 芳信 教授（法学学術院）

中谷 和弘 教授（東京大学大学院法学政治学研究科）

司 会：須網 隆夫 教授

日 付：2010年10月12日（水）

参加者：30名



■ 日-EU政治協力に関する早稲田オックスフォード・プロジェクト

本プロジェクトは、中村英俊准教授とオックスフォード大学政治国際関係学部のH・マイヤー博士を中心とする、日本とEUの政治関係に関する共同研究です。このプロジェクトには、ベルリン自由大学のT・ベルツェル教授とT・リッセ教授が加わることで、早稲田・オックスフォード・ベルリン・プロジェクトへ発展しようとしています。2010年4月には、本プロジェクトの一環として、前述の国際シンポジウムが開催されました。その後も、「変容するグローバル秩序における日・EU政治関係」をテーマとする書籍の出版を目的に、ワークショップなどを開催しています。

■ アジア太平洋地域の研究ネットワーク

EUJ早稲田は、アジア太平洋地域のEUセンターとのネットワーク活動に重点を置いています。2010年度には、次の2つの会合が開催され、ポール・ベーコン准教授、及び政治学研究科、アジア太平洋研究科の大学院生が参加しました。

シンガポールEUセンター主催：ラウンドテーブルへの参加

日 付：2011年1月20日（木）～23日（日）

場 所：シンガポールEUセンター

参加者：ポール・ベーコン 准教授

台湾EUセンター主催：2011 EU研究に関するアジア・ワークショップへの参加

日 付：2011年2月21日（月）～24日（木）

場 所：国立台湾大学

参加者：ポール・ベーコン 准教授

Mr. Charles Ovink（アジア太平洋研究科）

Mr. Jean-Sebastien（アジア太平洋研究科）

Ms. Fabiola Tsugami（アジア太平洋研究科）

齋藤 亜紀人 氏（政治学研究科）



IV. 他のEUセンター、およびEU代表部との協働

EUIJ早稲田は、日本国内および海外の他のEUセンターと良い関係を築き、情報交換や問題解決、良い実践例の共有など、さまざまな面で協力してきました。また、EU代表部の情報収集にも協力しました。

EUセンター・ワールド・ミーティング

日 付：2010年4月11日（日）～13日（火）
場 所：ホテル・メリア・プリンセサ（スペイン・マドリッド）
参加者：中村 英俊 准教授、ポール・ベーコン 准教授、他

EUIJ関西主催「春季合宿（Spring Intensive EU Workshop 2011）」への参加

日 付：2011年3月21日（月）～23日（水）
場 所：六甲保養荘
参加者：森井 愛子（国際教養学部3年）

駐日欧州連合代表部スタッフへのブリーフレクチャー「日中関係について1」

日 付：2010年9月28日（火）
講 師：毛里 和子 名誉教授（現代中国研究所顧問）
参加者：ファブリス・ヴァレイユ氏
（駐日欧州連合代表部 政治経済部部長）
マイケル・ハミルトン氏（駐日欧州連合代表部）
中村 英俊 准教授（政治経済学術院）
弓野 正宏 客員教員（現代中国研究所）

駐日欧州連合代表部スタッフへのブリーフレクチャー「日中関係について2」

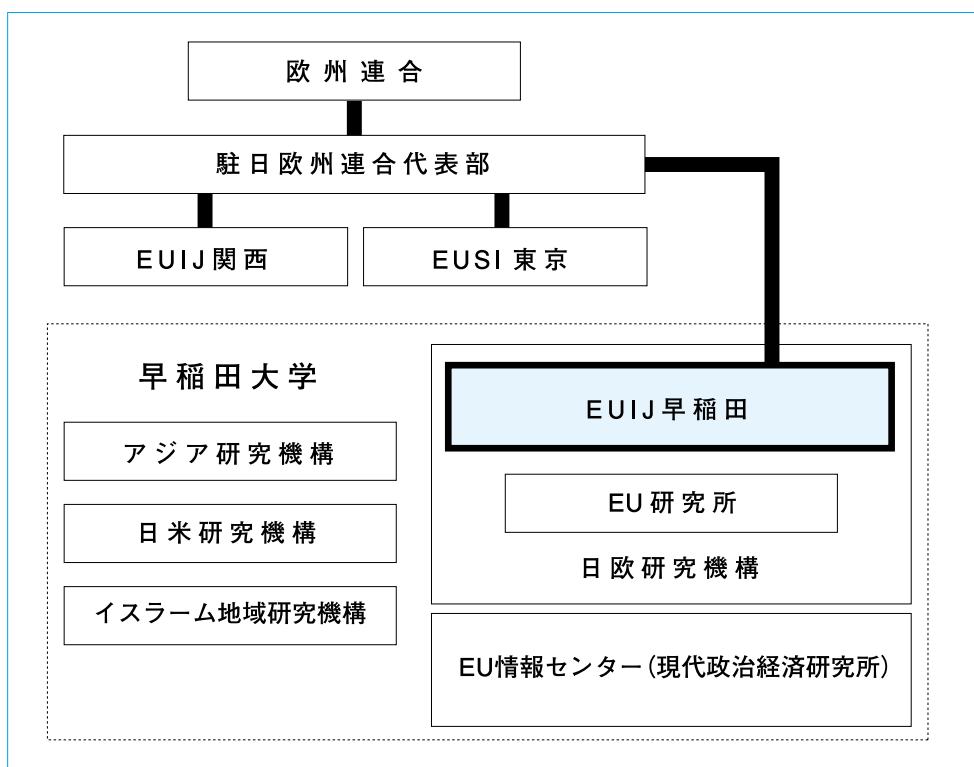
日 付：2010年9月29日（水）
講 師：天兎 慧 教授（国際学術院、現代中国研究所所長）
参加者：ファブリス・ヴァレイユ氏
（駐日欧州連合代表部 政治経済部部長）
マイケル・ハミルトン氏（駐日欧州連合代表部）
中村 英俊 准教授（政治経済学術院）
弓野 正宏 客員教員（現代中国研究所）
田中 周 研究助手（現代中国研究所）

V. EUIJ 早稲田

連絡先

EUIJ 早稲田 運営事務局
〒162-0041 東京都新宿区早稲田鶴巻町513 早稲田大学120-4 号館 3 階302
TEL:03-5286-8568
FAX:03-5286-8579
メールアドレス: EUIJ@list.waseda.jp

組織



運営委員会

代表:

福田 耕治 (政治経済学術院教授)

副代表:

中村 英俊 (政治経済学術院准教授)

ポール・ベーコン (国際学術院准教授)

運営委員:

中島 啓幾 (理工学術院教授)

須網 隆夫 (法学学術院教授)

中村 民雄 (法学学術院教授)

片岡 貞治 (国際学術院准教授)

久保 慶一 (政治経済学術院准教授)

岩城 雅信 (EUIJ 早稲田事務局長)

事務局

岩城 雅信

田邊 藍

立野 由紀

加藤 恵美

大橋 慶子

村田 信之

坂田 顕一

足立 心一

小林 剛

EUIJ 早稲田事務局長

プログラム・マネージャー

ファイナンシャル・オフィサー

プログラム・マネージャー

アシスタント・プログラム・マネージャー

永田町アウトリーチ・プログラム・コーディネーター

永田町アウトリーチ・プログラム・コーディネーター

調査役 (国際部事務副部長、国際課長)

国際部

Contents

About EUIJ Waseda

Overview : The role of EUIJ Waseda	
Objectives	
Message from the President.....	1
Message from the Director.....	1
I. ACADEMIC ACTIVITIES.....	2
Certificate courses for undergraduates	
Certificate courses for graduates	
EU essay contest for undergraduates	
Research scholarships for masters and doctoral students	
II. OUTREACH ACTIVITIES	7
EUIJ-Waseda website	
Diet members	
Central government officials	
The business community	
The public and students	
International symposia	
III. ACADEMIC EXCHANGE WITH THE EU.....	15
Academic exchange between Japanese and European scientists	
Academic exchange in the social sciences	
IV. COORDINATION WITH OTHER EU CENTRES AND EU DELEGATION	18
V. Organization of EUIJ Waseda	19

Note: All Professors and Associate Professors whose affiliation is not specified are Waseda University Faculty.

About EUIJ Waseda

Overview: The role of EUIJ Waseda

The European Union Institutes in Japan (EUIJs) are academic institutes that help to promote EU-related research and outreach. The three Institutes receive financial support from and work in partnership with the Delegation of the European Union to Japan. The EU Studies Institute in Tokyo (comprised of Hitotsubashi University, Tsuda College and Keio University) and EUIJ - Kansai (Kobe University, Kwansei Gakuin University and Osaka University), exist to achieve the common objectives of fostering better understanding of EU issues among the Japanese public at all levels, and promoting academic interaction. EUIJ Waseda, established in April 2009, is the third Institute in Japan, and the first to be established at a single university. By collaborating with the two existing consortia, and sharing their objectives, EUIJ Waseda strives to strengthen the multi-dimensional EU-Japan partnership in the 21st century.

Objectives

■ ACADEMIC ACTIVITIES

One of EUIJ Waseda's main objectives is to produce quality graduates, by supporting EU-related courses which can be studied through the Open Education Center at Waseda University. The EUIJ also offers an essay contest for undergraduates, and awards scholarships to graduate students. These activities provide opportunities for students to learn about Europe in more detail.

■ OUTREACH ACTIVITIES

EUIJ Waseda organizes international symposia, facilitates speeches by EU officials or intellectuals, and hosts small conferences or workshops for Members of Parliament and senior civil servants. All of these activities and events serve to create greater awareness of and familiarity with the EU throughout Japanese society.

■ ACADEMIC EXCHANGES WITH THE EU

Research and Development is one of the EU's main priorities. EUIJ Waseda provides a framework for the management of 3 scientific projects, each of which links Waseda and an EU institute of higher learning. EUIJ Waseda also provides active support for social scientific collaboration.

■ COLLABORATION WITH OTHER EU CENTRES

EUIJ Waseda is also co-operating with other EU Institutes throughout Japan, and has created an atmosphere in which information can easily be exchanged, problems solved and best practices shared. There are now 32 'EU Centres' in the world, one of which is EUIJ Waseda. Our representatives attend international conferences, so that EUIJ Waseda can participate in joint projects that are implemented among EU Centres at the international level.

Message from the President

Building Bridges between Japan and the EU

On the eve of its 130th anniversary, Waseda University has set itself the goal of transcending its Japanese identity and becoming a truly global university, one that cultivates young leaders able to make a substantial contribution to humankind and the global community, that brings together students and faculty from all regions of the world. Today we have agreements on exchanging researchers and students with more than 600 overseas universities and educational and research institutions. The university has to date accepted almost 40,000 students from abroad, including those not covered by such agreements, and sends 1,700 Waseda students abroad each year.

In April 2009, Waseda University set up EUIJ Waseda to serve as a hub for promoting academic cooperation and educational exchanges between Japan and the EU. Waseda and the EU had already established cooperative ties through such initiatives as the EU-Japan Friendship Week symposium focusing on political and economic

Kaoru Kamata

President, Waseda University



issues, the Executive Training Programme (ETP) in Japan for businesspersons from the EU, and the EU Framework Programme (FP) for Research and Technological Development involving scientists and engineers. EUIJ Waseda aims to foster systematic cooperation between Japan and the EU in meeting global challenges; to that end it rises above the level of faculty and university, and indeed the academic community as a whole, to work with politicians, civil servants, industry, and civil society at large. I am confident that through its programmes EUIJ Waseda can play a significant role in the University's mission of producing graduates ready to pursue careers on the world stage, and can do much to build bridges between Waseda — and Japan as a whole — and the EU.

Message from the Director

European-Japanese Relations and EUIJ Waseda

The Lisbon Treaty came into force in December 2009, and the European Union (EU) is now taking steps to institutionalize economic governance in light of the lessons of the economic crisis. How is the EU changing? What stance should Japan adopt towards the EU, and how can it strengthen ties of cooperation with it?

With the globalization of the international community, there are a growing number of areas where implementing policy at the supranational, EU level is proving a more effective approach for member states. And Japan and the European countries face many of the same challenges: an aging population, employment and unemployment policies, and dealing with the effects of the financial and economic crisis. Such problems can in not a few cases be solved by cooperating on the policy front and learning from each other's approaches, which is why academic collaboration is so vital.

The aspiring researcher on EU affairs must first acquire a basic knowledge of the EU's institutions and policy-making mechanisms, then develop an understanding of its relations with member states. That requires the systematic, comprehensive study of a multitude of disciplines. Waseda University has achieved considerable success in addressing that need. Through the Organization for European Studies and its affiliate,

Koji Fukuda

Dr. Poli. Sci.,
Director, EUIJ Waseda,
Director, Waseda Institute for EU Studies



EUIJ Waseda, it conducts interdisciplinary education and research programmes that integrate the humanities and sciences and transcend the specialties of individual undergraduate and graduate schools.

Many outstanding scholars are actively engaged in research on the EU and individual European countries at Waseda University, particularly the Organization for European Studies. By interacting with students, researchers, and civil society, EUIJ Waseda strives to deepen mutual understanding between Japan and Europe and foster cooperation in finding solutions to the common challenges facing both; it also trains individuals capable of contributing to the further development of ties between them. Building on its impressive achievements over the past two years, EUIJ Waseda seeks to further relations between Europe and Japan and, recognizing the importance of both, support their joint efforts to promote global governance.

I . ACADEMIC ACTIVITIES

Certificate courses for undergraduates

■ Certificate courses

Waseda University offers a study programme at its Open Education Centre, through which all students have an opportunity to obtain a minor in EU Studies. Comprised of 32 courses, the refined and expanded programme was open to all Waseda undergraduates in 2010. A total of 2,100 students registered for at least one class from this programme. In general, each course consists of 15 sessions. In order to obtain a minor, it is necessary for students to gain 16 credits, at least four of which must be earned studying on two of the core courses. Students who acquired 16 credits from the EU/European Integration Studies programme were recognized by Waseda as qualifying for a minor degree. The EUIJ, in partnership with the Open Education Centre at Waseda University, awards students a certificate of completion of an EU/European Integration Studies Minor, accompanied with a congratulatory letter from the Head of Delegation of the European Union to Japan. The students who achieved this distinction belonged to the following schools:

School of Political Science and Economics	1	School of Law	1
School of Education	2	School of Commerce	1
School of Social Sciences	2	School of International Liberal Studies	1

■ Course List

Core courses

Course Title	Instructor
1. European Governance and Public Policy	Koji Fukuda, Professor <i>et al.</i>
2. EU Science and Technology Policy	Hirochika Nakajima, Professor <i>et al.</i>
3. Introduction to European Integration 【On-demand course】	Koji Fukuda, Professor <i>et al.</i>
4. Introduction to the EU and European Integration	Koji Fukuda, Professor
5. Comparative European Public Policy	Koji Fukuda, Professor
6. The EU and NATO	Sadaharu Kataoka, Associate Professor
7. The EU and Africa	Sadaharu Kataoka, Associate Professor
8. History of European Integration	Takashi Morihara, Professor
9. Legal History of the European Union	Tamio Nakamura, Professor
10. EU-Japan Political Relations	Hidetoshi Nakamura, Associate Professor
11. Common Foreign, Security, and Defense Policy of the EU	Hidetoshi Nakamura, Associate Professor
12. EU Involvement in the former Yugoslav Conflicts	Keiichi Kubo, Associate Professor
13. EU Foreign Policy towards the Balkan States	Keiichi Kubo, Associate Professor
14. European Integration and Foreign Policy	Paul Bacon, Associate Professor

Elective courses

Course Title	Instructor
15. The Representation of the EU in the French Media	Shigeru Okayama, Professor
16. What is Europe?	Takashi Morihara, Professor
17. EU Social Policy	Tomoko Hikuma, Associate Professor (Den-en Chofu University)
18. Common Agricultural Policy and Enlargement of the EU	Masahiko Gemma, Professor
19. Public Health Policy and the Free Movement of Persons in the EU	Yasue Fukuda, Lecturer
20. The EU Economy and Economic Policy	Takeshi Daimon, Professor
21. EU Integration and French Culture	Shigeru Okayama, Professor
22. Regional Studies (Northern Europe)	Makoto Murai, Professor
23. International Public Administration A 01	Koji Fukuda, Professor

24. International Public Administration B 01	Koji Fukuda, Professor
25. International Organization 01	Hidetoshi Nakamura, Associate Professor
26. International Public Administration and Organization 01	Koji Fukuda, Professor
27. Sociocultural Studies (German Language)	Koichiro Agata, Professor <i>et al.</i>
28. EU Law I	Takao Suami, Professor
29. EU Law II	Takao Suami, Professor
30. Political Science I (Nation-States and Globalization)	Yoshiko Kuni, Associate Professor (Tokyo Gakugei University)
31. Regional Studies (Europe) 1	Minoru Tsubogo, Professor
32. Regional Studies (Europe) 2	Minoru Tsubogo, Professor

We also opened two of the EU Studies classes to the public.

An Emerging New Constitutional Thinking?: EU Law's Past, Present and Future

Lecturer: Prof. Tamio Nakamura

Date: 16 July 2010

Participants: 130

Content: Professor Nakamura reviewed the historical development of the EU from a legal perspective. Through decisions by the European Court of Justice, the EC has dynamically established its own laws and transformed European society. The establishment of the EU has not only ensured economic freedom, but also brought about the significant development of a legal system that values political and civil rights. However new problems, such as the democratic legitimacy and the distribution of authority between the EU and its member states, have also arisen. Finally, the Professor presented the EU as a pluralistic legal system based on the multi-level coordination of EU/EC laws and those of the member states and as a trans-border or complex polity based on the rule of law.



Comparative European Public Policy

Co-nosted with:

the Institute for Research in Contemporary Political and Economic Affairs (IRCPEA) and Organization for European Studies

Lecture Titles:

1. The Lisbon Treaty and the European Council
2. The Theory of European Integration and EU enlargement

Lecturers:

1. Associate Prof. Hisashi Tomikawa, Department of Intercultural Studies, Faculty of Humanities, Keiwa College
2. Associate Prof. Atsuko Higashino, Graduate School of Humanities and Social Sciences, University of Tsukuba

Date: 14 December 2010

Participants: 20

■ On-demand course

3. *Introduction to European Integration* was an on-demand course. It consisted of a series of recorded lectures, available to students on the Internet, which were designed to significantly raise the profile of the EU. Former Ambassador Hugh Richardson, Head of the EU Delegation, kindly agreed to be one of our featured lecturers.

A view of the on-demand class screen, from a lecture by Professor Koji Fukuda



Certificate courses for graduates

■ Certificate courses

Waseda University offered six courses pertaining to EU/European integration research, including a summer intensive course. In the year 2010, a total of 20 students took at least one of the courses. We also encouraged graduate students to write a thesis under the appropriate supervision of one of the members of the EUJ. EUJ Waseda awarded a graduate certificate of completion of EU/European Integration Studies, accompanied with a congratulatory letter from the Head of Delegation of the European Union to Japan, to students who had completed a master's thesis and more than one graduate course from the "Theme College for EU/European Integration Studies". Six students who all belonged to Graduate School of Political Science achieved this distinction:

■ Course list

Course Title	Instructor
1. European Governance after Lisbon	Koji Fukuda, Professor
2. European Public Policy	Koji Fukuda, Professor
3. Theories of European Integration	Hidetoshi Nakamura, Associate Professor
4. Contemporary Issues in European Integration	Hidetoshi Nakamura, Associate Professor (Coordinator)
5. The Politics and International Relations of the European Union	Paul Bacon, Associate Professor
6. The Political System of the EU	Min Shu, Associate Professor

■ Summer intensive course

For the 2010 Summer intensive course *Contemporary Issues in European Integration*, Dr Christian Tuschhoff of the Free University of Berlin came to Waseda for one week: the week commencing 23rd August. Dr Tuschhoff provided Waseda graduate students with four substantial days of teaching, addressing the following four major issues:

- (1) The EU Polity, Decision-Making, and the Impact on Member States;
- (2) The Financial Crisis in the EU and Beyond;
- (3) Common Foreign and Security Policy; and
- (4) Liberal Diffusion and Convergence vs. Competition of Regions.

His lectures were opened to a wide audience, including undergraduates, but the seminar-style classes were only open to pre-registered students. For the seminar-style classes, Dr. Tuschhoff sent us the reading lists and the questions/titles for assignments in advance. The pre-registered students were required to prepare intensively for the summer course and to write at least four essays.



EU essay contest for undergraduates

EUIJ Waseda held an EU essay contest for undergraduates. Prizes were available to students who were able to write a high quality academic essay on an important issue related to the EU. EUIJ Waseda expected to offer the following prizes.

The outcome of the 2010 EUIJ Waseda Essay Contest was as follows:

First prize:

Mr Yota Negishi (School of Law):

“The EU Court of Justice's judicial review of “Sanctions Regime against Terrorism” based on the Security Council Resolutions - Kadi cases” (* Original in Japanese)

Supplementary awards:

Ms Eszter Czeh (School of International Liberal Studies)

“Progress Drowns in the Mud: The Price of Corruption in Central and Eastern European Member States”.

Honourable mentions:

Mr Ken Ishida (School of Humanities and Social Sciences)

“Cultural Policy of the EU - mainly in Liverpool and European Capital of Culture” (* Original in Japanese)

Ms Aiko Morii (School of International Liberal Studies)

“The Need for Stronger Political Solidarity in Europe”

Ms Sina Guo (School of International Liberal Studies)

“The Nordics and the EU: Economic Factors, Foreign and Security Policy”

Research scholarships for masters and doctoral students

EUIJ Waseda provided Research Scholarships for 2 masters students and 3 doctoral students who conducted research in EU countries in academic fields relevant to the EU as follows:

Mr Hiroyuki Kosuge (M2, Graduate School of Commerce)

Purpose of research:

Conducting interviews on Japanese business enterprise in the European market, at the European offices of the Japan External Trade Organization (JETRO), in Brussels and Dusseldorf

Dates: 26 August – 27 December 2010



WHU Otto Beisheim School of Management



Headquarters of the EU in Brussels

Ms Yuko Sato (M3, Graduate School of Political Science)

Purpose of research:

Researching unpublished documents at the French and German ministries of foreign affairs in order to write up a master's thesis on the Elysée Treaty

Dates: 10 – 17 October 2010



A part of the documents I researched in the archives in Berlin.

Ms Rie Saito (D1, Graduate School of Letters, Arts and Sciences)

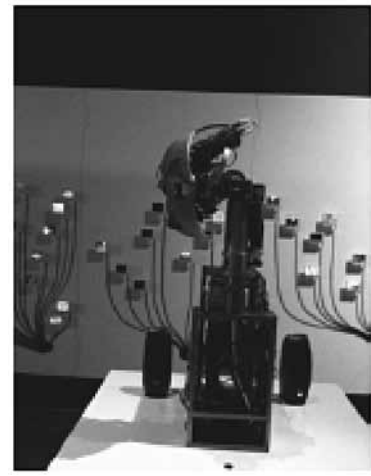
Purpose of research:

Conducting interviews on cultural policies towards media arts in Austria, Finland and Germany

Dates: 13 September – 5 December 2010



These are the appearance of Tacheles, Germany. There are full of graffiti arts.



In Ars Electronica Centre, Austria, varieties of media arts are exhibited.

Mr Koichi Fujisaki (D3, Graduate School of Political Science)

Purpose of research:

Collecting primary data on British foreign policy towards Europe in the post WWII period, from the national archives

Dates: 23 August – 3 October 2010



The British Library of Political and Economic Science

Mr Atsushi Osaki (D4, Graduate School of the Political Science)

Purpose of research:

Conducting research on relations between European elections and national elections in Italy, at the University of Milan

Dates: 1 October – 10 December 2010

II. OUTREACH ACTIVITIES

EUIJ-Waseda website

EUIJ Waseda has a dedicated English-Japanese website which allows wide public access to EU-related course syllabii, some of the on-demand lectures which were originally provided exclusively for registered undergraduate students, the activities of the Institute, and the documentation produced as a result of its activities. We have also been uploading at least one major news item from the Delegation site on a weekly basis. EUIJ Waseda hopes that readers of its own site are stimulated to search for the Delegation website and subscribe to this e-mail bulletin service.

Please visit the website for further details.

<http://www.euij-waseda.jp/eng>



Diet members

As of February 2011, Waseda University has produced 99 sitting Japanese MPs and a total of 6 postwar Prime Ministers. We are able to capitalize on the strength of our alumni relations to secure unrivalled access to significant actors in the Japanese political world, and our outreach strategy has been tailored to exploit this opportunity. We have organized breakfast meetings between EU/EUMS officials and Diet members and specialist seminars for National Diet Library staff.

■ Breakfast meetings with Diet members

Breakfast meeting with Mr Kan Suzuki, Senior Vice-Minister of the Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology (MEXT)

Date: 26 November 2010

Place: Hotel New Otani

Language: English and Japanese (consecutive translation)

Participants: 22 (EU member state embassies, MEXT representatives)

Content: Mr Suzuki, first elected to the House of Councillors in 2001, is now serving his second term. Since taking office as

the Senior Vice-Minister of MEXT, he explained that he has promoted the establishment of 'community schools' in Japan and the participation of local people in the management process of these schools. He also touched on the concept of 'the public new commons' which former Prime Minister Hatoyama advocated as a goal of this office and indicated that the expansion of community schools would contribute to the goal in its own way. Following his remarks, several views on Japanese civil society were exchanged between Mr Suzuki and the participants.

Breakfast meeting with junior Diet members

Date: 8 March 2011

Place: Hotel New Otani

Language: English

Participants: 11 (Delegation of the EU, EUJ Waseda)

1. Ms Mieko Nakabayashi, Member of the House of Representatives
2. Mr Rintaro Ogata, Member of the House of Representatives
3. Mr Tomoyuki Taira, Member of the House of Representatives

Content: The meeting was attended by 3 MPs and 3 representatives of the EU Delegation to Japan. They exchanged views on the general topic of more robust EU-Japan co-operation for better global governance. The exchanges at this brain-storming meeting were very productive. Participants were able to discuss several issues, and also to identify a number of issues which it would be valuable to discuss in greater detail in the future, such as climate change, human rights issues, international security, possible areas for EU-Japan co-operation, and an Asian integration inspired by European experience.



■ Seminars for National Diet Library staff

The Greek Financial Crisis

Lecturers:

Mr Masami Tanabe, Research Officer, Delegation to the European Union to Japan

Prof. Koji Fukuda

Date: 7 July 2010

Place: National Diet Library

Participants: 10

Content: Mr Tanabe first discussed the responses of EU institutions and the IMF to the Greek financial crisis. Greece presented its “Stability and Growth Program” to the Council

in January 2010, and in response it was decided that there would be coordinated euro investment by the Euro Group and the IMF, and that the European Council would establish a European Financial Stabilization Mechanism. Next, Professor Fukuda made a comment from the perspective of political science. The Stability and Growth Pact was intended to offset inconsistency in authority between the EU and its member states, but he pointed out that financial regulations have been loosened. Even after the crisis there are no signs of a unified financial policy. In particular, Germany is concerned about the moral hazard of a Greek bailout. The questions from the audience focused on the prospects for economic recovery from the crisis.

EU Law and the Lisbon Treaty

Lecturer: Prof. Tamio Nakamura

Date: 29 October 2010

Place: National Diet Library

Language: Japanese

Participants: 51 (40 NDL staff, 11 Lower and Upper House Secretariat staff and others)

EU External Policy and International Migration

Lecturer: Prof. Midori Okabe, Associate Professor, Faculty of Law, Sophia University

Moderator: Prof. Koji Fukuda

Date: 14 January 2011

Place: National Diet Library

Language: Japanese

Participants: 10

Content: Professor Okabe lectured on EU boundary issues and immigration policy. The inclusions to the EU can be specified in four zones corresponding to the influence of Schengen standard, (1) signatories to the Schengen agreement, as the core, (2) normative, (3) diplomatic, and (4) mandatory zones. Zone 2 includes candidates for EU membership, and is subject to significant impact. Zone 3 includes areas that are candidates for membership and are also subject to neighboring policies, for example Moldavia, where diplomatic results such as border control policies can be confirmed. Zone 4 consists of the countries of sub-Saharan Africa, where support for effective “migration management” measures is implemented to prevent large-scale international migration.

Central government officials

EUIJ Waseda has held a series of meetings and consultations with MoFA officials from the European Affairs Bureau since December 2010 and as a result hosted a seminar entitled 'The EU-Japan EPA in relation to the global diffusion of FTAs' on 22 March 2011. This event was attended by 10 civil servants from various Japanese ministries. Two civil servants also gave lectures to Waseda faculty members and students.

■ Seminar for civil servants

The EU-Japan EPA in relation to the global diffusion of FTAs

Lecturer: Prof. Takashi Terada, Organization for Asian Studies
Discussant: Mr Kenko Sone, Director of the International Economy Division, Economic Affairs Bureau, MoFA

Moderator: Prof. Hidetoshi Nakamura

Date: 22 March 2011

Place: Kazan Kaikan, Kasumigaseki

Participants: 14

Content: As regional integration progresses through FTAs (Free Trade Agreements) in the Asia-Pacific, we observe the increased opportunities for Japan to negotiate an FTA with the EU. Professor Terada lectured on (1) the EU strategy for FTA, (2) an EU-Japan FTA, (3) the significance of the EU-Korea FTA, and (4) the impact that the TPP (Trans-Pacific Partnership) will have on the EU strategy. According to Professor Terada, an FTA with the EU would be beneficial for Japan. As the discussant, Mr Sone touched on how an EU-Japan FTA, or rather EPA (Economic Partnership Agreement) / EIA (Economic Integration Agreement), could cover a wide range of issues, including non-tariff barriers. The EU and Japan have long carried out Regulatory Reform Dialogues. With the regulatory reform promoted by the Government Revitalization Unit, the Japanese government is willing to start the formal EPA negotiations after the EU-Japan Summit meeting in late May 2011.

■ Lectures by civil servants at Waseda

Contagion and the Greek Financial Crisis

Lecturer: Ms Tomoko Hayashi, Director for Overseas Economies, Cabinet Office

Date: 21 June 2010

Participants: 170

Content: Ms Hayashi lectured on the causes, development, impacts and lessons of the Greek financial crisis. The European Central Bank, IMF and others decided to establish the European Financial Stabilization Mechanism via support policies and the Economic and Financial Affairs Council, but so far there are no signs of improvement, with problems including negative economic growth, high unemployment, and a majority of citizens opposed to proposed fiscal reform. The concern is not just with the financial impact on the PIIGS (GIIPS) countries, but on Europe as a whole. She pointed out that the lessons we can learn from the crisis include the need for fiscal consolidation during the economic recovery period, the revision of the financial discipline mechanism (Stability and Growth Pact), the attitudes not to trust too much in

the discipline of markets, and the difficulty of restoring reliability in statistics once it is lost.



EU-Japan Relations: Past, Present and Future

Lecturer: Mr Atsushi Kuriyama, Chief of Political Unit, European Policy Division, European Affairs Bureau, MoFA

Date: 9 July 2010

Number of attendance: 360

Content: Mr Kuriyama lectured on the current development of the EU, and on the history and future of EU-Japan relations. For Japan, links to and cooperation with the EU are indispensable in terms of the EU's presence and role on the international stage, and its large size in terms of global GDP and trade volume. The framework for the dialogue between Japan and the EU was formed by the Joint Declaration of 1991 and subsequent summit meetings, and then in 2001 an Action Plan for EU-Japan Cooperation was adopted. 2010 was considered to be the year of a new start, and a joint High-Level Group was established. Cooperation between Japan and the EU includes foreign and security policy. For example, one positive result is a project to strengthen border control in Central Asia. However, it is difficult to say that negotiations on a possible EU-Japan EPA/EIA have gone well, because there are several difficult economic issues including, for instance, all tariffs, non-tariff measures and government procurement.



The business community

EUIJ Waseda invited a civil servant to lecture at the Digital Campus Consortium (DCC). The DCC is an industry-academia consortium set up to be the parent body of the Asian Cyber College (ACC), which is intended to distribute world-class lectures in an on-demand format. Approximately nine times a year, DCC industrial exchange forums are held to bring together participating companies from various industries.

Multilateralism in Japan: Case Studies of ASEM and APEC

Date: 10 November 2010

Lecturers:

Mr Takehiro Okubo, Director-cum-Senior Coordinator for Legal Frameworks with Europe, Asia-Europe Cooperation Division, MoFA,

Prof. Takashi Terada Organization for Asian Studies

Prof. Hidetoshi Nakamura

Participants: 80: 27 (Companies), 30 (Students), 23 (Waseda faculty members)

The public and students

■ Prominent EU officials and intellectuals

EUIJ Waseda hosted a variety of networking events in which representatives of the EU or the embassies of EU member countries and intellectuals were invited to participate. Waseda University provided the facilities for these events. Where appropriate, these events were announced to the general public through the EUIJ Waseda website and to all Waseda students through the Waseda-net portal. For some events where members of the general public and students were in attendance, simultaneous interpretation was provided.

The Treaty of Lisbon and Belgium's EU Presidency

Lecturer: Mr Frederic Verheyden, Minister-Counsellor of the Embassy of Belgium in Tokyo

Moderator: Prof. Sadaharu Kataoka

Date: 7 July 2010

Language: English

Participants: 100

Content: Mr Verheyden lectured on Belgium's EU Presidency.

As the rotating President of the Council, Belgium announced five priorities/themes based on the so-called legacy program, to be effective and implemented on the same level as the Lisbon Treaty. The August 2010 ASEM Summit and the 10th Conference of Parties to the Convention on Biological Diversity were especially important to the Belgian Presidency. Belgium, as the Council President, emphasized the need to design financial mechanisms, to reduce the gap between advanced and developing countries, and to deal with the problems of biodiversity. The EU must also be democratic and efficient, and must take a leadership role in maintaining balance as, on the one hand, advanced countries are falling and, on the other hand, emerging countries are rising in international society.

Europe and Unified Germany

Lecturer: Dr. Joschka Fischer, former Foreign Minister and Vice Chancellor of the Federal Republic of Germany

Moderator: Prof. Koichiro Agata, Faculty of Political Science and Economics

Date: 8 October 2010

Language: German and Japanese (simultaneous translation)

Participants: 450

Content: According to Mr Fischer, the innovative idea of transferring portions of national sovereignty to central European institutions after WWII, rather than keeping the balance of power among European Great Powers, promoted the foundation for the EU, of which Germany became one member. The greatest accomplishment of the EU was the consolidation of peace on the continent. Within the EU, Germany has recently sent troops overseas for the first time since WWII to contribute to post-conflict peace-building in the Balkan Peninsula. He strongly supported continuing European integration, including the accession of Turkey. He raised two issues – a more tolerant immigration policy and constructive dialogue between Europe and Islam, and spoke of the need for clearer linkage of both issues. He also argued that each EU member country should spend more on education and social welfare. Finally he spoke about the significance of being realistic, and keeping a close eye on ultimate goals in order to achieve them.



■ Other lectures

Professors affiliated with EUJ Waseda provided 2 off-campus demonstration lectures for high school students, in conjunction with the university's Academic Affairs Section and Admissions Office (lectures 1 and 2 below). Prof. Fukuda also gave a lecture to 100 participants at the International Citizen's College in Sakura City in July 2010 (lecture 3 below). He also gave a speech at the 2010 Tomonkai (alumni) reunion meeting of mayors on 8th June, which was held at the RIHGA Royal Hotel (lecture 4 below).

Lecture 1. The EU and Japan in International Society

Lecturer: Prof. Hidetoshi Nakamura
Date: 11 July 2010
Place: Tokiwa Kaikan, Oita Prefecture
Participants: 90

Lecture 2. Future physics collaboration between the EU and Japan

Lecturer: Prof. Hirochika Nakajima
Date: 17 November 2010
Place: Maebashi High School, Gunma Prefecture
Participants: 50

Lecture 3. National Sovereignty and the Local Community: the Power Balance between the EU and its Member States

Lecturer: Prof. Koji Fukuda
Date: 12 June 2010
Place: Central Community Centre, Sakura City, Chiba
Participants: 140

Lecture 4. Policy Cooperation and Multi-level Network Governance in the EU

Lecturer: Prof. Koji Fukuda
Date: 8 June 2010
Place: Rihga Royal Hotel Tokyo
Participants: 50



International symposia

■ The EU-Japan Friendship Week Symposium on 14 May 2010

In partnership with EUJ Waseda, the Institute for Research in Contemporary Political and Economic Affairs (IRCPEA) organised an annual EU-Japan Friendship Week Symposium at Waseda University, on 14 May 2010.

The Evolving Nature of the European Union: Integration through Enlargement

Lecturer: Prof. Jan Zielonka, European Politics and Ralf Dahrendorf Fellow, St Antony's College, University of Oxford

Introductory Remarks: Dr Barbara Rhode, Head of Science and Technology Section, and Minister-Counsellor, EU Delegation

Moderator: Prof. Hidetoshi Nakamura

Date: 14 May 2010

Language: English

Participants: 265

Content: Professor Zielonka presented the most fundamental implications of the eastern enlargement of the EU as being in the fields of democracy, economic governance, and foreign policy. He argued that if the deepening of European integration is measured by the level of its cohesion,

convergence or fusion, then these are contradictory to the widening of the EU through enlargement. However, enlargement is an effective measure for the EU to deal with the instability of neighboring countries. According to Professor Zielonka, the diversity caused by enlargement need not herald the end of European integration, and for an enlarged EU, we need to think of more pluralistic and flexible governance, which will in turn bring European governance closer to the citizens.



■ Other Symposia

EU-Japan Political Cooperation and Joint Global Responsibilities

Speakers:

Prof. Thomas Risse, Director of the Center for Transnational Relations, Foreign and Security Policy, Otto Suhr Institute of Political Science at the Freie Universität Berlin

Prof. Tanja Börzel, Jean Monnet Chair and Director of the Center for European Integration, Freie Universität Berlin

Prof. Hartmut Mayer, Fellow and Lecturer in Politics and International Relations at St. Peter's College, University of Oxford; Visiting Professor, Hitotsubashi University

Mr Fabrice Vareille, Head of Political and Economic Section, Delegation of the European Union to Japan

Prof. Hidetoshi Nakamura

Date: 9 April 2010

Language: English

Number of attendance: 40

Content: Professor Mayer presented ten world order scenarios and five EU external policy scenarios, pertaining to the roles both Japan and the EU can play for global governance through mutual cooperation. Professor Nakamura introduced the concept of "Responsible Civilian Power" and attempted to analyse EU-Japan relations at both the system and the unit levels. Professors Risse and Börzel presented the EU as a model for regional integration, the core elements of which are comprehensiveness and legalisation, and they explained three mechanisms of its diffusion: incentives, persuasion and capacity building. Mr Vareille overviewed EU-Japan relations, identified the major issues for the EU and Japan, and provided his perspective on EU-Japan cooperation after the Lisbon Treaty.

The EU as a Foreign Policy Actor

Lecturer: Prof. Thomas Risse, Director of the Center for Transnational Relations, Foreign and Security Policy, Otto Suhr Institute of Political Science at the Freie Universität Berlin

Date: 8 April 2010

Language: English

Participants: 100

Note: Prof. Risse, who was invited as a speaker in the symposium on 9 April 2010, kindly agreed also to give this public lecture

Content: Professor Risse articulated the similarities and differences between international organisations and nation-states in order to understand the nature of the EU. The EU differs greatly from international organisations with its supranational characteristics. It happens that some member states must follow the majority against their own will after qualified majority voting in the Council. However, the EU

also differs from a nation-state, as it lacks a monopoly over the means of violence, and has little "tax and spend" capacity. The EU is able to make decisions, but only based on the agreement of its member states. He also introduced the concept of multi-level governance. EU foreign policies cover a wide range of issues: not only security issues, but also trade, development and environment issues. He pointed out that the EU is characterized as "civilian power" with its multilateralism, democracy and emphasis on human rights.



Human rights symposium in partnership with the EU Delegation

EUIJ Waseda also hosted another symposium on human rights in partnership with the EU Delegation. Mr Ikuro Yamahana, Parliamentary Vice-Minister for Foreign Affairs agreed to appear at the symposium.

Workshop on Implementation of the IC mechanism

Co-hosted with: EU Delegation

Assisted by: Faculty of Law

Speakers:

1. Prof. Michael O'Flaherty, Member, United Nations Human Rights Committee
2. Prof. Yuji Iwasawa, Chairperson, United Nations Human Rights Committee
3. Ms Mercedes Morales Fernandez, Office of the High Commissioner for Human Rights
4. Mr Paul John Green, former Legal Officer, Asia-Pacific Programme, Int'l Commission of Jurists
5. Mr Petr Konupka, Ministry of Justice of the Czech Republic
6. Mr Gerhard Thallinger, Federal Ministry for European & International Affairs, Austria
7. Ms Orsolya Makar, Ministry of National Resources, Hungary
8. Mr Roeland Bocker, Ministry of Foreign Affairs, Netherlands
9. Mr Fumio Takemura, Attorney, Vice Chair of JFBA Committee on Realization of Individual Complaint Mechanisms under the International Covenant on Civil and Political Rights (ICCPR) and Other Treaties

10. Prof. Hae Bong SHIN, Faculty of Law, Aoyama Gakuin University

Date: 4 November 2010

Participants: 15, incl. Prof. Tonami, Waseda University, 4 JFBA members, and the Secretary-General of Amnesty International



Promoting Human Rights in Japan through U.N. Treaties

Co-hosted with: EU Delegation

Assisted by: Faculty of Law

Supported by: United Nations Information Centre (UNIC)

Speakers:

1. Prof. Michael O'Flaherty, Member, United Nations Human Rights Committee
2. Ms Mercedes Morales Fernandez, Office of the High Commissioner for Human Rights
3. Mr Paul John Green, former Legal Officer, Asia-Pacific Programme, Int'l Commission of Jurists
4. Mr Petr Konupka, Ministry of Justice of the Czech Republic
5. Mr Gerhard Thallinger, Federal Ministry for European & International Affairs, Austria
6. Ms Orsolya Makar, Ministry of National Resources, Hungary
7. Mr Roeland Bocker, Ministry of Foreign Affairs, Netherlands
8. Mr Fumio Takemura, Attorney, Vice Chair of JFBA Committee on Realization of Individual Complaint Mechanisms under International Covenant on Civil and Political Rights (ICCPR) and Other Treaties
9. Ms Mikiko Otani, Attorney, Vice Chair of JFBA Committee on International Human Rights
10. Prof. Akiko Ejima, Faculty of Law, Meiji University

Moderators:

Prof. Hiroyuki Banzai, Faculty of Law

Prof. Yuji Iwasawa, Chairperson, United Nations Human Rights Committee

Date: 4 November 2010

Place: Okuma Auditorium

Participants: 500

Opening Remarks were offered by:

Prof. Katsuhiko Shirai, President of Waseda University

Mr Stefan Huber, Acting Head of the EU Delegation

Mr Ikuo Yamahana, Parliamentary Vice-Minister for Foreign Affairs

Content: Waseda University President Katsuhiko Shirai and Acting Head of Delegation of the European Union to Japan Stefan Huber gave the opening addresses. After that, Mr Ikuo Yamahana, Parliamentary Vice-Minister for Foreign Affairs, spoke, stating that the Japanese Government has begun serious examination of whether or not to implement individual complaints procedures, and that he wanted to absorb the discussions in this symposium. After that, Professor O'Flaherty gave the Keynote Address, and Mr Morales and Ms Otani responded.

In this lecture, Prof. O'Flaherty answered questions about the impact of the development of UN human rights treaties, systems and procedures on the protection of human rights, and talked about reforming the system, while relating these ideas to the current situation in Japan. Professor O'Flaherty concluded that he was neither in agreement with naive idealists, nor pessimists. UN human rights treaties, systems and procedures have the potential to make a difference in the protection of human rights. We have an obligation to achieve that.

Responses were offered by Ms Mercedes Morales Fernandez, from the Office of the High Commissioner for Human Rights, who explained the process by which individual complaints are investigated, and Ms Mikiko Otani, Attorney, Vice Chair of JFBA Committee on International Human Rights, who discussed how attorneys can contribute to securing individuals' human rights through individual complaints procedures. Associate Professor Banzai moderated a productive and wide-ranging question and answer session between speakers, panellists and members of the audience.



Death Penalty: Japan in Global Perspective

Co-hosted with: The British Embassy and the Netherlands Embassy

Speakers:

Prof. Roger Hood, Oxford University

Mr Nobuto Hosaka, former MP, former Chair of the Parliamentary League against the Death Penalty, Japan

Mr Yusuke Fuse, Japanese Death Penalty Analyst

Mr Saul Lehrfreund, Death Penalty Project, UK

Mr Parvais Jabbar, Death Penalty Project, UK

Mr Bart Stapert, Dutch human rights expert

Moderator: Mr Dominic Al-Badri, EU Delegation

Date: 25 November 2010

Language: English and Japanese (simultaneous translation)

Participants: 170

Content: In his opening remarks, Mr Hosaka explained that this public lecture is an opportunity to consider the lay judge system and the death penalty. Professor Hood explained the reasons why most countries accept the abolition of the



Copyright: British Embassy Tokyo

death penalty. He cited factors including the democratization of Europe, decolonization, the impact of human rights treaties, and democratic constitutions in many countries. He pointed out that abolition of the death penalty requires political leadership, communication by governments to the general public, and the need to lead people towards abolition through respect for human rights. There have been moratoria in Islamic and Asian nations that have led to a steep decline in the number of executions. Abolition of the death penalty is advancing throughout the world due to the moral force of human rights, and in the future, countries like Japan that retain capital punishment will be more isolated, and will be exposed to pressure to abolish it.



III. ACADEMIC EXCHANGE WITH THE EU

Waseda has signed exchange agreements with 112 institutions in 22 out of 27 EU member countries. Academic exchange between Waseda and the EU is clearly increasing. Regarding student exchange, last year 444 Waseda students studied in the EU, including those who participated in short study programmes. Waseda in turn accepted 197 students from the EU as of May 2010, with this figure also higher than for previous years.

The level of faculty exchange between Waseda and the EU is also impressive. Waseda accepted less than 50 researchers from EU institutions between 2008 and 2009, but this figure jumped to 62 researchers in the academic year 2010, as a result of promotional efforts by EUIJ Waseda and the Waseda International Office. In turn, 35 Waseda researchers visited EU institutions during the last academic year.

Academic exchange between Japanese and European scientists

EUIJ Waseda continued to promote academic exchange through three major projects in the fields of science and engineering, all of which have relevance in policy areas where there is substantial untapped potential for EU-Japan cooperation. A series of workshops/seminars were also held in conjunction with these projects.

■ Academic Exchange Project 1: ‘Robot Technology for an Aging Society’

Outline of the Project

Project Leader:

Prof. Masakatsu G. Fujie, Faculty of Science and Engineering

Counterpart:

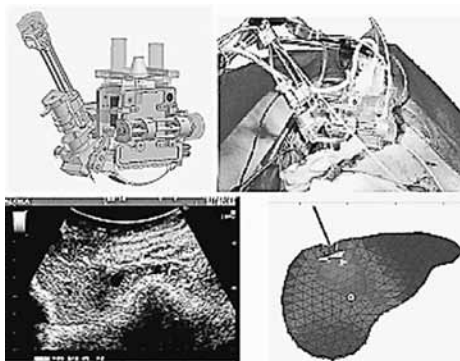
Prof. Paolo Dario, Biomedical Robotics, Scuola Superiore Sant'Anna (SSSA), Pisa, Italy

General content

With the advent of a super-aging society, the practical application of Robot Technology (RT) is anticipated in lifestyle-support fields such as healthcare and welfare. It could also contribute to the creation of new industries. As Japan is the leading country in RT, it is essential to develop RT further and integrate it into social infrastructure.

Professor Fujie is a project leader on ‘Global Robotic Academia’ which was recognized by the Ministry of Education, Culture,

Sports, Science and Technology (MEXT) as a Global Centre of Excellence (COE) Programme. This centre is working to create a systematic theory of RT, covering the new relationship between people, society and machines, and to develop robotics by integrating various fields of science and technology. The Centre has been taking various initiatives to develop world-class talent. For instance, agreements have been in effect for several years with Korea’s KIST-CIR (Korean Institute of Science and Technology, Center for Intelligent Robotics) and Italy’s SSSA (Scuola Superior Sant’Anna). Further, in September of 2008, an agreement was reached among four universities: the University of Karlsruhe (Germany), Carnegie Mellon University (U.S.), the Hong Kong University of Science and Technology and Waseda University. This agreement is known as “Inter ACT” (International Center for Advanced Communication Technologies). These agreements are expected to produce a group of young researchers who experience overseas research and build substantial relationships with peers from partner institutions in both education and research.



■ Academic Exchange Project 2: 'Marine Biotechnology and Metagenomics for Environmental Conservation'

Outline of the Project

Project Leader:

Prof. Haruko Takeyama, Advanced Science and Engineering,
Department of Life Science and Medical Bio-Science

Counterpart:

University of Bonn, Germany

General content

This project examines ways in which marine biotechnology and metagenomics can effectively contribute to environmental conservation. Professor Takeyama is a leading scholar in the field, and anticipates that the project has the potential to play a key role in the research of global warming and climate change. She is currently seeking research counterparts in Europe, and working within a prestigious trans-European research network entitled 'Marine Genomics Europe' (MGE). MGE serves as an interface between Life Sciences, Ecology, Environmental Studies, and Bio-Informatics. MGE is funded under the European Commission's Framework Programme (FP6) for the implementation of high-throughput genomic approaches to the biology of marine organisms.

More details can be found at:

<http://www.marine-genomics-europe.org/index.php>

■ Academic Exchange Project 3: 'Photonics as a Model for Industry-Academia-Government Collaboration'

Outline of the Project

Project Leader:

Prof. Hirochika Nakajima, Faculty of Science and Engineering, and the Director for Research Strategy

Counterpart:

Prof. Hugo Thienpont, Applied Physics and Photonics,
Vrije Universiteit Brussel (VUB), Belgium

General content

Photonics is a discipline of key importance in industrial sectors such as data- and tele- communications, the camera industry, biotechnology, solar energy, medical instrumentation, and laser material processing. EUJ Waseda believes that closer co-operation over the development of photonic technology, and the application of photonic solutions in many key industrial sectors will foster even closer EU-Japan co-operation.

Both Professor Nakajima and Professor Thienpont are leading scholars in the field of photonics. VUB, of which Professor Thienpont is a faculty member, has established The Erasmus Mundus MSc programme in Photonics. Professor Thienpont has been building international research networks, and Professor Nakajima is also keen on strengthening research ties and increasing the number of academic exchanges of graduate and postgraduate students between the EU and Japan in the context of the Erasmus Mundus programme.

■ International workshops and joint seminars in science and engineering

Intelligent Control and Robotics: An overview of research at the Delft Center for Systems and Control

Lecturer: Prof. Robert Babuska, Delft University of Technology, Netherlands

Date: 26 July 2010

Place: TWIns (Tokyo Women's Medical University-Waseda University Joint Institution for Advanced Biomedical Sciences), Tokyo Women's Medical University

Language: English

Participants: 30

Note: This lecture event was held in conjunction with the GCOE (Global Center of Excellence) GRA (Global Robot Academia) Workshop

Activities and experiences at DIEES Robotic Laboratory of University of Catania

Lecturer: Dr. Domenico Longo, Electronic and Automation Engineering, University of Catania, Italy

Date: 30 August 2010

Place: TWIns (Tokyo Women's Medical University-Waseda University Joint Institution for Advanced Biomedical Sciences) Waseda University

Language: English

Participants: 30

Note: This lecture event was held in conjunction with the GCOE (Global Center of Excellence) GRA (Global Robot Academia) Workshop

A Message to the Young Generation: the Need for True Innovation

Lecturer: Prof. Carlo Rubbia, Nobel Laureate in Physics, the European Organization for Nuclear Research

Date: 6 October 2010

Language: English

Participants: 350

Robotics and Education in Italy and Japan

Speakers

1. Dr. Nunzio Abbate, STMicroelectronics, Automation Robotics & Transportation Manager, Power Module & Embedded System Group Manager
2. Dr. Michele Guarnieri, Director, HiBot Corporation, Japan
3. Prof. Giovanni Muscato, Dipartimento di Ingegneria Elettrica Elettronica e dei Sistemi Facoltà di Ingegneria, Università degli Studi di Catania
4. Dr. Pericle Salvini, Post-doctoral Fellow, ARTS Lab - Advanced Robotics Technology and System, Scuola Superiore Sant'Anna, Pisa, Italy
5. Prof. Tomomasa Sato, Department of Mechano-Informatics, Graduate School of Information Science and Technology, the University of Tokyo
6. Associate Prof. Tairo Nomura, Clinical Study of School Education, Faculty of Education and Graduate School of Education, Saitama University

7. Mr Akihiro Nishimura, ZMP Inc, Japan
8. Prof. Hiroshi Yamakawa, Department of Modern Mechanical Engineering, School of Creative Science and Engineering, Waseda University
9. Prof. Masakatsu G. Fujie, Department of Modern Mechanical Engineering, School of Creative Science and Engineering, Waseda University
10. Associate Prof. Hiroyasu Iwata, Waseda Institute for Advanced Study, Waseda University

11. Prof. Shuji Hashimoto, Department of Applied Physics, School of Science and Engineering, Waseda University
- Date: 4 December 2010
 Language: English
 Participants: 80
 Note: Opening Remarks were offered by Prof. Koji Fukuda, Director of EUIJ Waseda.
 For more details: <http://www.rt-gcoe.waseda.ac.jp/italy-japan2010/>

Academic exchange in the social sciences

■ The Waseda-Bonn Project in EU law

Professor Takao Suami is currently collaborating with Professor Matthias Herdegen, Director, Institute for Public Law, University of Bonn. Their joint project revolves around international economic law, international trade law and EU law.

A workshop was held at Waseda in October 2010, which focused on the development of a legal framework to regulate international trade between the EU and Japan, in conjunction with the Waseda-Bonn University Day, 2010.

Colloquium for Japan-Germany Legal Studies on University of Bonn Day at Waseda

Panellists:

1. Prof. Wulf-Henning Roth, Institute for International Private Law and Comparative Law, University of Bonn
2. Prof. Matthias Leistner, Institute for Commercial Law, University of Bonn
3. Prof. Matthias Schmidt-Preuß, Institute for Public Law, University of Bonn
4. Prof. Johannes Koendgen, Institute for International Private Law and Comparative Law, University of Bonn
5. Prof. Teruaki Tayama, Vice President, Faculty of Law
6. Prof. Tetsuo Kato, Faculty of Law
7. Prof. Kazuhiro Tsuchida, Faculty of Law
8. Prof. Yoshinobu Eizumi, Faculty of Law
9. Prof. Kazuhiro Nakatani, University of Tokyo
10. Assistant Prof. Kyoko Ishida, Faculty of Law

Moderator: Prof. Takao Suami

Date: 12 Tuesday 2010

Language: English

Participants: 30



■ The Waseda-Oxford project in EU-Japan Political Relations

Professor Hidetoshi Nakamura has worked closely with Dr Hartmut Mayer, Department of Politics and International Relations, University of Oxford, since December 2006. Their joint project revolves around EU-Japan political relations. This project now includes Professors Tanja Börzel and Thomas Risse from the Free University of Berlin, and has effectively developed into the Waseda-Oxford-Berlin project. As part of this project, as explained in the Outreach Activities section, EUIJ Waseda organised an international symposium on 9 April 2010.

■ Consolidation of a regional network of university professors researching the EU in Japan, China, South Korea, Southeast Asia, and Oceania

EU Centres/Institutes Roundtable on EU-ASIA Strategic Partnership – Form and Substance

Date: 20-23 January 2011

Place: EU Centre in Singapore

Language: English

Participants: 40

Note: The event was attended by Prof. Paul Bacon

2011 Asian Workshop on EU Studies - The future of European Integration and EU-Asia relations

Date: 21-24 February 2011

Place: EU Centre in Taiwan

Language: English

Participants:

Prof. Paul Bacon

Mr Charles Ovink, Graduate School of Asia Pacific Studies (GSAPS)

Mr Jean-Sebastien Boire, GSAPS

Ms Fabiola Tsugami, GSAPS

Mr Akihito Saito, Graduate School of Political Science



IV. COORDINATION WITH OTHER EU CENTRES AND EU DELEGATION

EUIJ Waseda has developed its activities by co-operating with other EU Institutes in information exchange, joint problem-solving and the sharing of best practices. We also coordinate brief lectures for the EU delegation.

EU Centres World Meeting in Madrid

Date: 11-13 April 2010

Place: Hotel Melia Princesa, Madrid, Spain

Language: English

Participants from Waseda:

Prof. Hidetoshi Nakamura

Prof. Paul Bacon

Spring Intensive EU Workshop 2011, EUIJ Kansai

Date: 21-23 March 2011

Place: Rokko Hoyou-so, Hyogo prefectural Kabutoyama
Ikoino-yado

Language: English and Japanese

Participants from Waseda:

Ms Aiko Morii, School of International Liberal Studies

Participants: 50

Brief lecture by Waseda faculty on China-Japan relations 1

Date: 28 September 2010

Lecturer: Dr. Kazuko Mori, Honorary Professor of Waseda University, Special Advisor of Waseda Institute of Contemporary China Studies

Participants:

Mr Fabrice Vareille, Head of Political and Economic Section,
EU Delegation

Mr Michael Hamilton, Intern, Political and Economic
Section, EU Delegation

Prof. Hidetoshi Nakamura

Mr Masahiro Yumino, Visiting Lecturer, Waseda Institute of
Contemporary China Studies

Brief lecture by Waseda faculty on China-Japan relations 2

Date: 29 September 2010

Lecturer: Prof. Satoshi Amako, Faculty of International Research and Education, Graduate School of Asia Pacific Studies, Director of Waseda Institute of Contemporary China Studies

Participants:

Mr Fabrice Vareille, Head of Political and Economic Section,
EU Delegation

Mr Michael Hamilton, Intern, Political and Economic
Section, EU Delegation

Prof. Hidetoshi Nakamura

Mr Masahiro Yumino, Visiting Lecturer, Waseda Institute of
Contemporary China studies

Mr Amane Tanaka, Research Associate, Waseda Institute of
Contemporary China studies

V. Organization of EUIJ Waseda

Contact Information

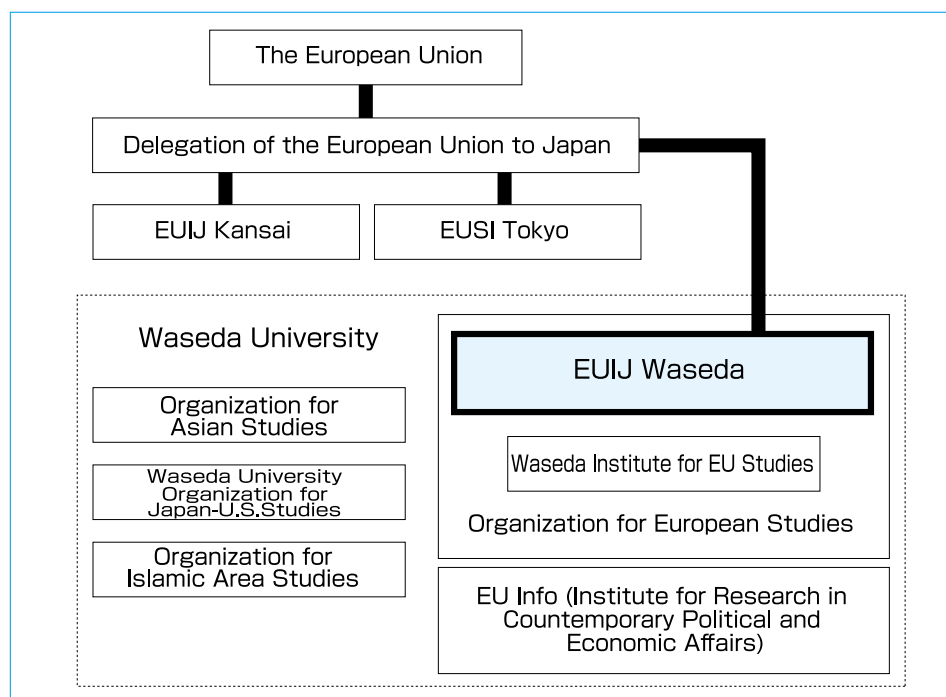
EUIJ Waseda Secretariat: 302 Bldg. 120-4, 513 Waseda Tsurumaki-cho, Shinjuku-ku, Tokyo 162-0041, Japan

TEL: +81 3 5286 8568

FAX: +81 3 5286 8579

E-mail: EUIJ@list.waseda.jp

Organisation



Steering Committee

Director:

Koji Fukuda, Professor, Faculty of Political Science and Economics

Deputy Directors:

Hidetoshi Nakamura, Associate Professor, Faculty of Political Science and Economics

Paul Bacon, Associate Professor, School of International Liberal Studies

Committee Members:

Hirochika Nakajima, Professor, Faculty of Advanced Science and Engineering

Takao Suami, Professor, Waseda Law School

Tamio Nakamura, Professor, Faculty of Law

Sadaharu Kataoka, Associate Professor, School of International Liberal Studies

Keiichi Kubo, Associate Professor, Faculty of Political Science and Economics

Masanobu Iwaki, General Manager, EUIJ Waseda Secretariat

Secretariat:

Masanobu Iwaki, General Manager, EUIJ Waseda Secretariat

Ai Tanabe, Programme Manager

Yuki Tateno, Programme Manager

Emi Kato, Programme Manager

Keiko Ohashi, Assistant Programme Manager

Nobuyuki Murata, Nagatacho Outreach Programme Coordinator

Kenichi Sakata, Nagatacho Outreach Programme Coordinator

Shinichi Adachi, Manager/Administrative Director, International Office

Go Kobayashi, International Office



EUIJ
WASEDA

Annual Review 2010

EU Institute in Japan at Waseda University



EUIJ
WASEDA